

学士力・人間力基礎

# 情報 リテラシースキル の 学び方



2018

富山大学附属図書館

# 巻頭言

理事（国際担当）・副学長

附属図書館長

畑 中 保 丸



卒業後の社会では、あるアクションをした場合にそれが「正解」だったかどうかを客観的にチェックできる「単一の解答」が見当たらないことが多い。このため、これまで自分の知識が「既存の答え」に合うことで「正解」としてきた方法があまり通用しなくなる。

本学では、このギャップへの対応力を養うため『情報リテラシー』が用意されている。要は、やってみないとわからないことに一定の根拠を持って素早く踏み出せるよう、情報を活用して創造的な思考回路を新たに身に付けようとするものである。

言うは易しで、そのためには自分の取り組み方針を変更しなければならなくなる。例えば、図書館の利用法も、単なる答え探しの場では大変勿体無いことになる。今では一定の「答えのようなもの」は Web 検索で簡単に引き出せ、図書館に出かける必要性もあまり感じられない時代であるが、この答え探し型アプローチでは、自らが成し遂げた結果で評価が決まるような、「やりがいのある仕事」に取り組むには明らかに不利である。

これを補うために図書館が用意した学修支援プログラムは、学修に必要な学術情報の活用スキル（図書、雑誌、データベースやインターネット上の多様な情報を活用する能力）の育成支援であり、「情報リテラシー」の涵養に有効として世界的に広まってきている。

この「情報を活用するスキル」を必須の学士力として位置付け、今回『情報リテラシースキルの学び方』としてまとめたのが本テキストである。富山大学の教養教育一元化を機会に、このテキストを全新入生へ配布し『学士力・人間力基礎（総合科目）』での授業に活用してもらうとともに、全学に紹介してスキルを広めていきたい。

特に新入生の皆様は、このテキストを携えて富山大学3キャンパスの特色ある図書館を実際に訪れ、高等学校に比してきわめて豊富で多様な学術資源（蔵書130万冊、電子ジャーナル1万3千タイトル、データベース24タイトル）と人的資源（支援スタッフ30数名）のパワーを最大限活用し、学士として磨きをかけていただきたい。

## 第1章 はじめに

- 1.1 大学で求められる「学士力・人間力」とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 1.2 課題について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 1.3 学士力・人間力基礎で養うべき力・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4



コラム 富山大学が皆さんに期待する「学士力」・「人間力」

## 第2章 図書館から見た「学士力」とは

- 2.1 高校とは違う学修方法について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

## 第3章 図書館を使いこなそう！—中央図書館の使い方—

- 3.1 図書館にはどんな場所や設備があるの？・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 3.2 図書館ではどんな情報が利用できるの？・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- 3.3 図書館では図書館員が待っている！・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
- 3.4 演習問題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24



コラム 大学図書館で過ごした時間

## 第4章 学修に必要な情報を探す

- 4.1 調べるってどういうこと？・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
- 4.2 調べ物の入口としての参考図書—辞書・事典・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
- 4.3 学問体系を反映する小世界—請求記号とフロアマップ・・・・・・・・・・ 28
- 4.4 図書と雑誌を探す  
—OPAC(オーパック)とCiNii Books(サイニイブックス)・・・・・・・・・・ 30
- 4.5 雑誌論文(日本語)を探す  
—CiNii Articles(サイニイアーティクルズ)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
- 4.6 探した図書・雑誌・論文を利用する—貸出・文献複写・・・・・・・・・・ 47
- 4.7 演習問題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53

## 第5章 「学士力・人間力基礎」で学ぶアカデミックスキル

|   |    |
|---|----|
| 5.1 「学士力・人間力基礎」で学ぶアカデミックスキル—理由編—          | 54 |
| 5.2 「学士力・人間力基礎」で学ぶアカデミックスキル—内容編1（概説）—     | 55 |
| 5.3 「学士力・人間力基礎」で学ぶアカデミックスキル—内容編2（資料検索）—   | 57 |
| 5.4 「学士力・人間力基礎」で学ぶアカデミックスキル—内容編3（引用）—     | 57 |
| 5.5 「学士力・人間力基礎」で学ぶアカデミックスキル—内容編4（テクニック集）— | 62 |
| 5.6 発信することの責任と意義                          | 64 |
| 5.7 おわりに                                  | 65 |



コラム 図書館は人と情報を結び付ける

## 第6章 図書館員を利用しよう

|                   |    |
|-------------------|----|
| 6.1 図書館員が待っている！   | 67 |
| 6.2 利用できる学修支援サービス | 68 |

## 第7章 役に立つ情報源の紹介

|                   |    |
|-------------------|----|
| 7.1 第4章で紹介した各種情報源 | 70 |
| 7.2 その他の有用な情報源    | 73 |
| 7.3 図書館からの情報発信    | 77 |
| 7.4 講習会（イベント）の実施  | 78 |
| 7.5 演習問題          | 79 |

## 1.1 大学で求められる「学士力・人間力」とは

本講義の中心的な話題であり、大学で求められる、またみなさんに身に付けて欲しい力「学士力・人間力」とは以下のようになります。

自力で課題を発見し、適切な資料・方法を駆使して、  
自分なりに考え答えを導き出せる力

これは、高校までの基本的な学習である、教科書や問題集に載っている問題に解答するといったこととは大きく異なります。高校までの学習では、与えられた問題をいかに効率よく解き、正解を導くかが重視されてきました。これに対して、大学での学習では、問題さえも与えられない場合があります。そのときは、自分で適切な問いを発見するところから始めなくてはなりません。解き方もいくつかの例が示されることはありますが、基本的に解法の手引きや解答・解説といったものは存在しません。それどころか、答えが一つに定まらない場合や、誰でも理解できるような答えが存在しない場合さえ無数にあります。例えば、次のような問いにあなたはどうか答えますか。（ちょっとだけ真面目に考えてみてください。）

[ 問い ]

人間は何のために生きるのか

何をどのように答えて良いのか悩みますよね。しかしながら、実はこのような難解な問いに対しても答えを導き出すことは可能です。その方法は、まず条件を付け（読んだ書物によれば）、目的を示し（満足する人生を送るために）、客観的なデータを踏まえ（これまで多くの人がそうしてきたように）、論理的に（みなで協力しなるとなし得ないことだから）持論を展開するといったものです。これらの前提を論を述べる際の「分析の観点」と言います。例えばこの観点到立てば、「人間は何のために生きるのか」に次のように解することもできそうです。

[ 解答 ]

様々な書物によれば、満足する人生を送るためには、多くの人がそうしてきたように、自分だけのことを考えず、みなで幸せになれるように社会に貢献できる生き方を選ぶべきである。なぜならば、社会全体が幸福になるためにはみんなの意識改革と協力が必要で、みな幸福が一人一人の幸福であるのであれば、我々はこれを目指して生きていくべきだからである。

仮に、上記のように難解な問いに答えることができたとしても、それがみなに受け入れ



てもらえるかはまた別の問題です。読み手・聞き手が納得できる答えを示すためには、次の三つの点に注意する必要があります。

一つ目、重要なのは適切な調査・論証の手続きを踏まえていることです。後で詳細に述べますが、「私は思う」とか「そうでないはずがない」とかいった書き手の判断を示すだけでは、まったく論証に必要な手続きを踏んでいることにはなりません。

二つ目、最終的に辿り着いた答えが、妥当（確率が高く）で、かつ穏当（普通にあり得ること）なものであると、読み手・聞き手を説得しやすくなります。すなわち共感を呼びやすいということです。ただし妥当な答えは必須条件ですが、穏当な答えはかならずしもそうではありません。自分なりに熟考し、論理的に考え、辿り着いた答えが極端なものであったとしても、妥当なものであれば、答えとして採用する場合があります。穏当な答えであることはあくまで受け入れられやすいという程度のものです。（自然科学の分野においてはその傾向が極めて強いです。人文科学の分野では穏当な答えが求められることもあります。）

三つ目、そしてもっとも大切なことは、「論理的説明力」です。簡単に言うと、なぜそのような答えに辿り着いたかを、理屈を立てて明解に説明できることということになります。この説明力には、「論理的思考力」（1.3.1 節）と「論理的表現力」（5.2 節）が含まれます。前者は論理的な思考の流れを、後者はそれを適切に分かりやすく（ある意味形式的に）表現する力を指しています。この二つの力に関しては、後にまた取り上げて詳述します。

ちょっと長くなりますが、このような力は高校までにみなさんが学んできたことになぞらえて言うのであれば、「難解な数学の問題の正解を得ることそのものではなく、その解答を得るための解法について、適切な方法であるか、またその他の方法はないか、もっと簡単な方法はないかということに考えを巡らし、さらにそもそもこの問題を考えることに意味があるのかといったことを、公平に評価すること」ということになります。これが我々が大学で学んでいく中で、身に付け磨き続けていかなければならない「学士力・人間力」の基礎なのです。

## 1.2 課題について

### 1.2.1 問いを発見する力・その重要性

自力で「問い」を発見する力を「問題発見力」と言います。後でも述べるように大学ではこの問題発見力（と解決する力）を特に重視して教育を行っています。高校までの学習と異なり、大学では教員の言ったことやテキストに書いてあることを無批判に鵜呑みにしてはいけません。「こう書いてあるが、本当だろうか」と常に疑ってみる姿勢を要求されることとなります。ちょっとした引っかかりや不明瞭な点を見逃してはなりません。それが問題発見へ繋がる第一歩であるからです。この問題発見力は社会に出ても必要になる力です。よく耳にする「与えられた仕事をこなすだけの人間」はダメだという箴言と強く関連付けられます。その意味で問題発見力は一生を通じて重要なスキルと位置づけるこ

とができます。

問題発見力はある種の洞察力・直感力に支えられているといえます。この力が未熟な者がいくら考えても有効な問いを得ることは困難です。(思い出してみてください。高校の国語や社会の授業で先生が何か質問はありませんかと問われたとき、先生をうならせる質問ができたことがあったでしょうか。)

ですが、自分には無理だと諦めてしまうのは些か早計に過ぎるといえます。なぜならこのような力は、みなさんが生まれ持った能力ではなく、これまでの経験や学修によって磨き上げられていく力からです。もしあなたが問題発見力に自信がないと思っているのであれば、これからの大学生活でたくさんの経験を積むとともに、知識を学んでいけばいいだけのことです。もちろん大学生活を終えて社会に出ても継続的に学修し、経験を積んで自分の問題発見力を磨き続けていかなければならないことも忘れてはなりません。

### 1.2.2 魅力的な課題とは

魅力的な課題とは、判断の基準として次の三つの点を上げておきます。

一つ目、「はっきりとは分からないこと」が課題になり得るということです。まずは自分がよく知らないことで見当を付け、辞書を調べてみたり、インターネット等で検索してみたりするのも良いでしょう。また図書館の情報検索等を利用するのも有効です。ここで言うはっきりとは分からないこととは、おそらく当たり前すぎて疑問にも思わなかったり、有効なデータが簡単に見つけられなかったりすることが多いはずです。

例えば、昼の挨拶はなぜ「こんにちわ」ではなく「こんにちは」と書くのが正しいかとか、「女性の方がたくさんの言葉を知っている」という直感は本当に正しいかとか、一見些細でつまらない疑問であっても、本当に知りたいと思うのであれば十分に魅力的な課題となり得る可能性があります。実は課題探しそのものも意味のある学習です。課題探しを通じて、実は世の中のことは、あらゆることが正確には明らかにされていないということにも気付いてほしいのです。

二つ目、「面白いと思うこと」も課題になり得ます。実はこれがもっとも重要なことで、面白いと思えない課題の調査・研究は長続きしないし、中身を深めることはできません。面白いと思うことは、言い換えれば、その課題の解決に、資料を調べたり、アンケート調査をしたりと一定の労力を払えることでもあります。何が面白いことなのかは実に多様です。一見個人によっても大きく異なっているように思われます。しかしながら、友人とよく話し合ってみると意外に何を面白いと思うかには一定の共通性があることに気付くはずで、それがどのような共通点を持つのかを話し合ってみることも自体も魅力的な課題と言えます。

三つ目、魅力的な課題は「知的好奇心を喚起すること」でなければならなりません。知的好奇心とは何でしょうか。まず、それが公共的で普遍的な問いであることです。例えば「日本人はどのくらいリンゴが好きか」という課題は立てられますが、「友だちの山田さんはどのくらいリンゴが好きか」という課題はほぼ価値がありません。多くの読み手・聞

き手はあなたの友人の山田さんの嗜好には興味がないからです。すなわち得られた答えがある程度の一般性（対象が日本人や中学生といった大きなものであること）を持つこと、予測性（その結果から何かの予測を得られること）を持つことが課題にとって、とても重要なのです。またその解決に主観的ではなく、客観的で論理的な説明が必要となる問いである必要もあります。ちょっと自分だけで考えてみてすぐ答えが分かってしまうような問いは、公共的で普遍的な問いとは言えません。

このような点をすべて満たした問いをここでは探求すべき魅力的な「課題」と定義しておきます。魅力的な課題と向き合う時間を過ごすことは、気の合う仲間とファミレス等で長い時間おしゃべりをして盛り上がる楽しさとは根本的に異なるはずです。時間をかけて真摯に課題と向き合い、それを丁寧に解き明かしていくべきものであることを忘れてはいけません。

## 1.3 学士力・人間力基礎で養うべき力

### 1.3.1 論理的思考力（ロジカル・シンキング：logical thinking）

1.1 節で取り上げたような論理的思考を展開するためには、次の二つの点が重要となるので挙げておきます。

一つ目、1.1 節でも指摘した「分析の観点」について説明します。持論を展開する場合には、かならず前提となる観点を定めておく必要があります。再度整理しておく、条件、目的、客観的なデータ、論理性を揃えて論を展開していくことが必要です。ここで言う論理性とは、「誰が考えてもだいたいそうなる」ということです。それを一般化したスキルが論理的思考力ということになります。

二つ目、「客観的なデータに基づく根拠」について説明します。それは論を展開するとき書き手が読み手・聞き手を迷いなく持論へ引き込んでいくための道しるべのようなものであると言えます。道を歩いていて、分岐点に来たときに右か左のどちらに進めばよいのかを判断するための材料のようなもので、この論にとって「どうやらこちらが本当らしいぞ」と思えるような資料でなくてはなりません。例えば、大きな話で言えば、「今世紀に入って地球の温暖化が進んだ」というのであれば、いくつかの観測点で前世紀と今世紀の気温差を示す資料がこれに当たり、小さな話で言えば、「3年前に比べてある店の料理がまずくなった」というのであれば、ある程度の人数的にインタビューしたデータ等を示すことが必要になるでしょう。気を付けて欲しいのが、仮に「ある店の来客数が3年前に比べて減少した」という客観的データがあったとしても、それは、根拠としては不十分です。なぜなら客の減少が「まずくなった」ことが原因かどうかははっきりと関連付けて良いものかどうか証拠不十分で判断に迷うからです。

### 1.3.2 批判的思考力（クリティカル・シンキング：critical thinking）

もう一つ、批判的思考力は学士力を考えるときに、非常に重要な意味を持っています。



まず、「批判」という言葉に惑わされないようにしましょう。ここで言う批判とは、否定や非難の意味ではなく、客観的に情報を分析、判断するという意味になります。言い換えれば、「ある命題（議論すべき内容）が正しいかどうかまず疑え」ということであり、それが正しいと考えられる理由を検討すべきであるということになります。もちろん検討した結果正しい（と考えられる）のであれば、それを受け入れることに問題はありません。

具体例で考えてみましょう。「男性の方が女性よりもかなり多くアルコールを飲む」という考えがあるとします。経験的にみて、どうも確からしいように思います。批判的思考では、このような確からしいこともまず疑ってみることから始めるのです。取り敢えずネットで調べてみましょう。その結果、なんと豪州ではアルコールの消費量が「近年では男女差が縮小している」ことが分かりました。以下、記事を一部引用します。

今回の研究によると、20世紀初頭に生まれた人々の間では、男性がアルコールを少しでも飲む確率は女性の2.2倍で、消費量が問題になる確率は3倍だった。また肝硬変等健康問題を引き起こす確率は3.6倍だった。しかし、時代が下がるにつれ男女差は縮小し、20世紀末に生まれた男性がアルコールを少しでも飲む確率は女性のわずか1.1倍で、消費量が問題になる確率は1.2倍、健康問題を引き起こす確率は1.3倍だった。

（「女性のアルコール消費 男性とほぼ同じに＝豪調査（NEWS JAPAN）」

<http://www.bbc.com/japanese/features-and-analysis-37759116> 18-03-12 参照。）

このように調べてみると意外な結果が得られることがあります。みなさんに求められている批判的思考力とは、まず「疑ってみること」から始まるのです。もちろん、上に示したネット上の記事が真実かどうかを十分に検討する必要があります（メディアリテラシー）。



## 富山大学が皆さんに期待する 「学士力」・「人間力」

副学長（学生支援担当）  
清水 正 明

### 学士力とは何か？

「…幅広い知識や深い専門的学識を持ち、問題提起し解決する能力、組織や社会の一員として貢献する能力、他者と意思を疎通するコミュニケーション能力、新しいものやことを創造する能力、地域を志向する意識を身につけ、各学部が示す学修成果をあげた者に学士の学位を授与する。…」この文章は、富山大学のディプロマ・ポリシーからの抜粋です（本学ウェブページ参照）。

この中で、以下の5つの能力がとくに重要です。

#### (1) 幅広い知識

自然・社会・文化・人間について幅広く普遍的な知識を持ち続け、自立した市民として社会生活に活かす能力を身に付けている。

#### (2) 専門的学識

それぞれの専門性に応じた深い知識を持ち、活用する能力を身に付けている。

#### (3) 問題発見・解決力

自ら問題を発見し、情報や知識を複眼的、理論的に分析して問題を解決するとともに、新たに様々なものやことなどを創り出す能力を身に付けている。

#### (4) 社会貢献力

組織や社会の一員として自らの役割認識し、責任を持って自己を管理するとともに、倫理観と使命感を持って自ら行動し、地域と国際社会に貢献する能力を身に付けている。

#### (5) コミュニケーション能力

他者の考えを理解し、自らも情報発信する能力を身に付けている。また、適切な手段や言語を使い、多様な人々との意思疎通と協働を可能にする能力を身に付けている。

参考までに、文部科学省 / 中央教育審議会答申（平成 20 年 12 月）から、学士力に関する主な内容をまとめますと、以下の4つがあげられています。

#### (1) 知識・理解（文化、社会、自然など）

#### (2) 汎用的技術（コミュニケーション・スキル、数量的スキル、問題解決力など）

#### (3) 態度・志向性（自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任など）

#### (4) 総合的な学習経験と創造的思考力

### 人間力とは何か？

内閣府「人間力戦略研究会報告書」（平成 15 年 4 月）によれば、人間力とは、「社会を

構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」と定義されています。また、人間力は以下の3つの要素から構成されています。

(1) 知的能力的要素

「基礎学力（主に学校教育を通じて修得される基礎的な知的能力）」、「専門的な知識・ノウハウ」を持ち、自らそれを継続的に高めていく力。また、それらの上に応用力として構築される「論理的思考力」、「創造力」など。

(2) 社会・対人関係力的要素

「コミュニケーション・スキル」、「リーダーシップ」、「公共心」、「規範意識」、「他者を尊重し、切磋琢磨しながらお互いを高め合う力」など。

(3) 自己制御的要素

上記の要素を十分に発揮するための「意欲」、「忍耐力」、「自分らしい生き方や成功を追求する力」など。

教養教育総合科目「学士力・人間力基礎」の紹介

みなさんには、入学後の早い段階で在学中の学修や学生生活に関する基礎や展望を学び、高い使命感と創造力のある人材となっていただきたい。そのために、「学士力・人間力基礎」では、みなさん自身が学修上や学生生活上の計画を立て、正課内外及び学内外において主体的な学びや取り組みを実践できるように、多種多様な事象や知見などに対して、能動的に向き合い、理解し、責任を持って、自己を管理する重要性を学びます。図書館と連携して、アカデミックスキルの基礎も取り上げますので、どうぞご期待ください。



# 図書館から見た「学士力」とは

## 2.1 高校とは違う学修方法について

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。これまで厳しい受験勉強に追われる生活を送られて来たことと思います。これから楽しい大学生活が始まります。目指す資格の取得や、好きな分野の勉強、サークルでの自主的な活動や友人との語り、他県や県内の他地域から入学した同級生、海外からの留学生など多様なバックグラウンドを持った同世代との交流、長い余暇を利用した旅行や自主的な活動など、待っている未知の学生生活に胸ふくらませていることと思います。富山大学は多様なカリキュラム、学生（生活）支援を提供し、みなさんの学生生活をしっかりとサポートします。図書館も、多様な学修支援の中核として、みなさんの勉学をサポートしていきます。

さて、大学に入学されたのはもちろん自分で選択した専攻で勉強し、学士として必要な学問的知見や高度なスキルを身に着けるためです。それ以外の多様な活動、楽しみはあるでしょうが、このことを抜きにして大学生活はありえません。

それでは、大学での学修はこれまでの学修（高校での学修）とどう異なるのでしょうか。高校では教科書があり、この教科書の内容を、予習、復習、そして授業そのものでキチンと習得することが学修の要でした。先生から教えられたことを正確に理解し、理解を踏まえて与えられた課題（問題）を正確にこなす（解く）ことが学修の主な内容だったのではないかと思います。それぞれの方の趣向により、一つの科目や一つの分野を深く勉強したり、趣味で創作や音楽などいろんな活動をしたりして、授業による習得の範囲を超えて何かに打ち込まれた方もいると思いますが、高校における学修はおおむねそうしたものだものと思います。

もちろん、大学でも特に基礎的なレベルでは教科書があり、授業でも教科書を使う場合がほとんどかも知れません。教科書の記述に沿って忠実に進められる授業もあるでしょう。あるいは、教科書の内容にさらに先生方の知見や経験を付加して、教科書の内容のみにとどまらない授業もあるでしょう。ひょっとすると教科書はあるものの、あくまでも参考程度で、授業自体は独自の内容とスタイルで進められるケースもあるかもしれません。教科書以外の多くの参考書を参照する必要がある授業（とくにゼミのような専門課程の授業）もあるでしょう。

しかし、大学での学修でもっとも大事なことは、講義を聴くことは学修全体のごく一部で、授業の外で与えられた課題をこなす、あるいは自ら学修する課題を見つけ出し、自ら課題をこなす姿勢です。90分の授業で「教える」ことができること、講義可能な内容はどんな学問分野でもごく一部です。実は教える立場の教員は、授業で教授可能なことの外側に広がる各学問分野の基礎的な学修を学生が自らの意思で、自らのスキルを持って強力

に進めることを期待しているのです。授業や講義は学ぶべきことの核心かもしれませんが、核心にある知識や認識、スキルを確実にし、自分自身の学問的認識の不可欠の一部とするためには、広範な自学自習が必須なのです。大学における学修は教えること、教わることの外側で、教わったことの学問的な意味を確認し、自分の生きた認識の一部とするための自主的な活動なのです。

たとえば、アメリカ近代文学史の授業を取ったとします。教科書や代表的な小説の抜粋などで、文学思潮や個別の作家の個性について概略を学んでいるとしましょう。しかし、これはあくまでも文学（史）を学ぶための導きですし、そのように理解すべきものです。歴史や文学思潮の概略について聞いた後は、自分で個々の作家の作品を手にとって味読し、自分自身の文学史を作り上げることが必要なのです。そのような広範で持続的な各専攻分野での自学自習を背景にすることにより授業が生きてくるといっても過言ではありません。

このように考えると、高校での学修と異なる点は明らかです。大学で期待されているのは、自分で学修方法を習得して、自ら課題を見つけて、自ら課題を解決するための学修、調査をする姿勢なのです。そして、自立的に課題を発見し、課題を解決するためには学術的な手続きやアカデミックなスキルが必要になるのです。

図書館を含む大学で行われる支援はこうした自立的な姿勢とスキルを身に着けるために行われるものです。例えば、授業で統計の基礎を習った後は自習で使いこなせるようにし、必要があれば統計の手法を使って何等かの対象についてデータを収集し、分析します。この場合、統計は授業で教授しますが、それを十分に使いこなせるようになること、なんらかの解決すべき課題を見つけて、統計的手法でそれを解決することは自分自身の学修課題となります。もちろん、課題が与えられることもあります。その場合も、回答は自ら探し出すことが必要です。

みなさんがこれから教養教育を経て、専門課程に進むにつれて、求められる課題解決のためのアカデミックな自立性は次第に高度なものになっていきます。漫然と授業を受けるのではなく、授業を通して新たな知見を得るとともに、ぜひ、自分自身の学修（方法）について強いモチーフや意識を発見・獲得（もう十分あるという方がほとんどかもしれませんが）し、大学が提供する支援や多様なリソースを使いこなし、学士として十分な自立的な学修経験、課題解決経験を積んでいただきたいと思います。学問をすることの真の喜びは自主的な経験の中で、先人の学問的認識や思考に触れ、それに刺激されて、自分自身の勉学の動機や目的を発見し、その目的や動機に促されて自ら学ぶことです。

みなさんの自立的な学修を可能とするために、膨大な学問的資源（図書、雑誌、データベース、電子ジャーナル、電子ブック等）を収集蓄積しているのが図書館です。また、富山大学だけでなく、全国の大学図書館とも連携して、本学だけでは提供できない学問的資料も利用できる体制を整備しています。こうした資料や資料探索用のツールを使うための

講習も用意していますし、必要が発生したその都度みなさんの質問にも答えられるよう、人の支援体制も整備しています。自立的な学修はこうした多様な情報源を十分に使いこなし、さらに得た情報を自ら評価・判断し、アカデミックな作法に従って処理、発信（レポート、口頭発表、卒業論文等）することにより、高校とは本質的に異なる学士にふさわしい活動となります。

このテキストは初年次の学生のみなさんが図書館を使って、自学自習や授業の課題をこなすために必須の必要最低限の情報についてご説明しています。ここで説明している程度のことは初年次のうちにしっかりと身に着けて2年次以降の学修に備えることが必要です。

ぜひ、このテキストを使い、また実際に図書館を使いこなすことにより、富山大学の新生として必要なアカデミックスキルを身に着けましょう。以下の章では具体的な図書館利用方法についてわかりやすく説明していきます。



# 図書館を使いこなそう！

—中央図書館の使い方—

## 3.1 図書館にはどんな場所や設備があるの？

みなさんは、図書館でどんなことができると思いますか？静かに本を読んだり勉強したりする場所、という印象が強いかもしれません。

しかし、それだけではありません！図書館には静かに勉強ができる空間もある一方で、グループで話し合いや発表ができる空間もあります。図書館は、学習スタイルに合わせた多種多様な場所や設備を用意し、みなさんに提供しているのです。ここでは図書館内にどんなスペースがあるかをご紹介します。図書館で何ができるかを理解し、ぜひ自分自身の学習活動に役立てましょう！

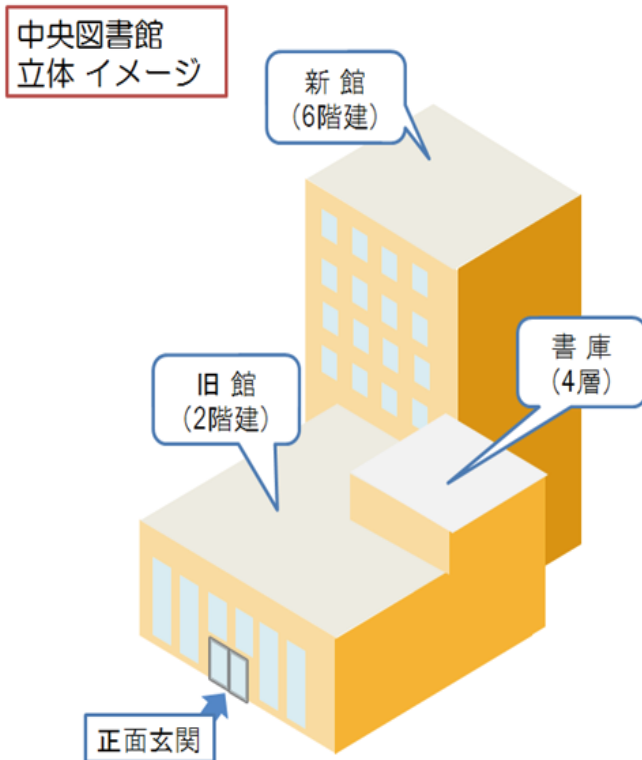


図 3-1 中央図書館立体イメージ

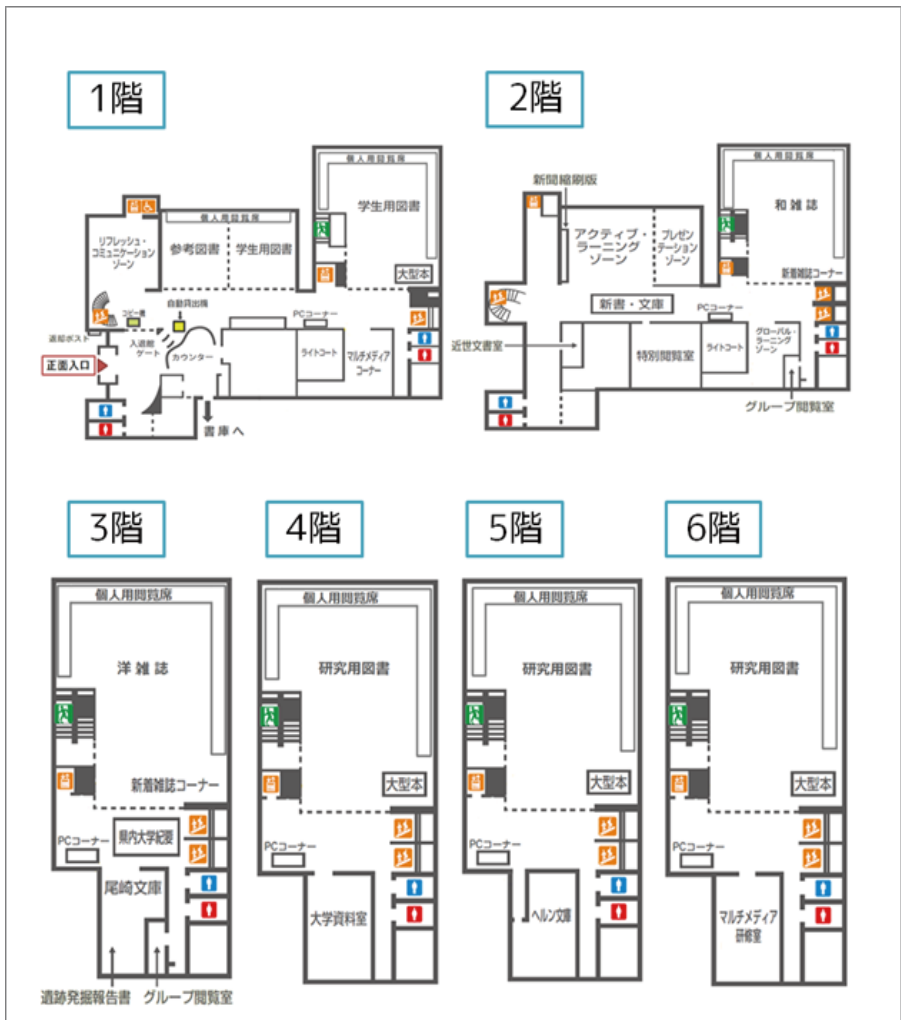


図 3-2 フロアマップ

### 3.1.1 ラーニング・commons

「ラーニング・commons」とは、学生の学習活動を支援するために整備された空間のことを指します。ここではディスカッションをしたりプレゼンをしたりなど、積極的な学習活動を行うことができます。中央図書館には、「アクティブ・ラーニングゾーン」「プレゼンテーションゾーン」「リフレッシュ・コミュニケーションゾーン」の3カ所が設置されています。



### ・アクティブ・ラーニングゾーン

中央図書館2階に、グループで学習を行ったり、自分のパソコンを持ち込んで利用したりすることに適した広い空間があります。ここでは、机やいすを自由に動かして組み合わせたり、備え付けのホワイトボードを活用したりして、会話をしながらグループ学習を行うことができます。



図 3-3 アクティブ・ラーニングゾーン



### ・プレゼンテーションゾーン

アクティブ・ラーニングゾーンの隣に、プロジェクターやスクリーンなどのプレゼン機器を活用した学習や、小規模な集会に利用できる空間があります。アクティブ・ラーニングゾーンと同じく、自由に机やいすを組み合わせることができます。プレゼンの練習やプレゼン機器を使用したグループ学習、小規模な授業や発表会などに活用できます。プレゼン機器を利用したい場合は、カウンターにお申し込みください。



図 3-4 プレゼンテーションゾーン



## ・リフレッシュ・コミュニケーションゾーン

中央図書館1階の正面入口のすぐ横に、自動販売機や、タウン情報誌やファッション誌などの一般雑誌が設置された、快適にくつろげる空間があります。長時間の学習の合間の休憩や、待ち合わせ、気軽なコミュニケーションなどの場としてご活用ください。



図 3-5 リフレッシュ・コミュニケーションゾーン



## 3.1.2 個室で話し合いやグループ学習ができる場所

### ・グループ閲覧室

中央図書館の2階と3階には、グループで利用できる個室があり、テーブルといす8席が備えてあります。利用したい場合はカウンターに申し込みましょう。

平日9:00-21:00の間、最大3時間まで利用できます。



図 3-6 グループ閲覧室



### 3.1.3 一人で静かに学習できる場所

#### ・個人用閲覧席

個人で静かに学習や読書をしたい時には、図書館の各階の奥に個人用の座席が多く設けられていますので、そちらを自由にご利用ください。



図 3-7 個人用閲覧席



### 3.1.4 パソコンが利用できる場所

中央図書館内のパソコンは ID とパスワードでログインし、自由に利用することができます。パソコンを使った学習や情報検索、電子ジャーナルや電子ブックの利用などができます。また、パソコンを使った実習形式の授業や発表ができる部屋もあります。

#### ・マルチメディア研修室

中央図書館 6 階にある部屋で、パソコン 30 台のほか、プロジェクターやマイク、プリンタなど、いろいろな機器を設置しています。パソコンを利用する時は、総合情報基盤センターのパソコンと同じ ID/パスワードでログインします。パソコンを使った説明会や発表会、授業など幅広く利用することができます。



図 3-8 マルチメディア研修室



### ・マルチメディア・コーナー

中央図書館 1 階にある空間で、情報検索用のパソコンや図書館所蔵の DVD・ビデオなどを視聴できる機器を配置しています。パソコンを利用する時は、図書館で発行する ID/パスワードが必要になるので、利用するには図書館カウンターにお尋ねください。主に OPAC やデータベースを使って、情報を検索するための場所です。



図 3-9 マルチメディア・コーナー



### 3.1.5 語学について学べる場所

#### ・グローバル・ラーニングゾーン

中央図書館 2 階にある空間で、留学生用の図書や日本語教材、英語多読本、語学学習教材、地図があります。



図 3-10 グローバル・ラーニングゾーン



### 3.2 図書館ではどんな情報が利用できるの？

図書館といえば、「本がたくさんあるところ」と、ほとんどの人がイメージするでしょう。しかし、図書館で持っている情報は、「本」ということばだけでは表現しきれないほど、いろんな種類があります。

図書館で使える情報にはどんな種類があるかを知り、積極的に活用しましょう。

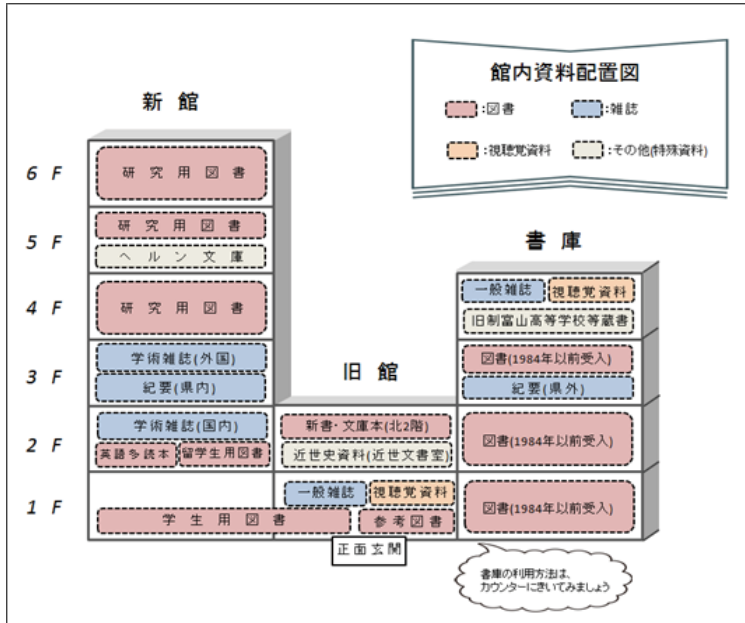


図 3-11 館内資料配置図

#### 3.2.1 図書

図書とは、単発で出版されているものを指します。(図 3-12) 書店で一番よく目にする、いわゆる「本」と呼ばれるものをイメージするとよいでしょう。中央図書館ではさらに以下のように区分して、配架場所を分けています。

1984 年度以前の古い図書については、基本的に書庫に配架されています。

##### ・ 学生用図書

教員や図書館員が講義に関連して選んだ図書や、学生自身が図書館に置いてほしいと希望した図書です。学生のみなさんの学習やレポート作成に役立つ図書をたくさん揃えています。1 階に配架してあります。

## ・研究用図書

総合大学として多種多様な研究が行われる中、それぞれの分野の研究活動において利用される、より高度で専門的な内容の図書です。特定の情報を調べたい時に使う参考図書も一部含まれており、貸出ができます。4階から6階に配架してあります。

## ・参考図書

辞書や百科事典など、ある特定の情報を調べたい時に使う図書です。1階にまとめて配架してあり、貸出できません。

## ・新書・文庫本

新書・文庫本と呼ばれる小型の図書は、まとめて2階のアクティブ・ラーニングゾーンの前（北2階）に配架してあります。

## ・英語多読本

英語多読本とは英語学習のための読書教材で、英文で書かれた小説やエッセイの小冊子です。学習者に合わせて、読みやすさがレベル分けされています。2階のグローバル・ラーニングゾーンに配架してあります。

## ・留学生用図書

留学生向けの図書で、日本語の学習教材や日本文化に関する図書などが置いてあります。2階のグローバル・ラーニングゾーンに配架してあります。



図 3-12 図書

### 3.2.2 雑誌

雑誌とは「〇月号」「〇月〇号」のように、継続して出版されるものを指します。いつ終わるかは決まっていません。大学の図書館では、学術的な内容を取り扱った「学術雑誌」がその大半を占めています。

#### ・学術雑誌

出版社や学会などから刊行された、学術的な内容の雑誌です。研究者が自身の研究成果をまとめた論文（学術論文）を掲載しています。2階には主に国内刊行雑誌、3階には国外刊行雑誌が配架してあります。雑誌は冊子のほか、数冊まとめて製本されたものがあります。

#### ・紀要

主に大学などの研究機関が刊行しているものを指します。県内の大学などで刊行している紀要は3階に、県外の大学などの紀要は書庫に配架してあります。

#### ・一般雑誌

書店などでよく見かける、気軽に読める内容の雑誌です。新しいものは1階のリフレッシュ・コミュニケーションゾーンに、古いものは書庫に配架してあります。

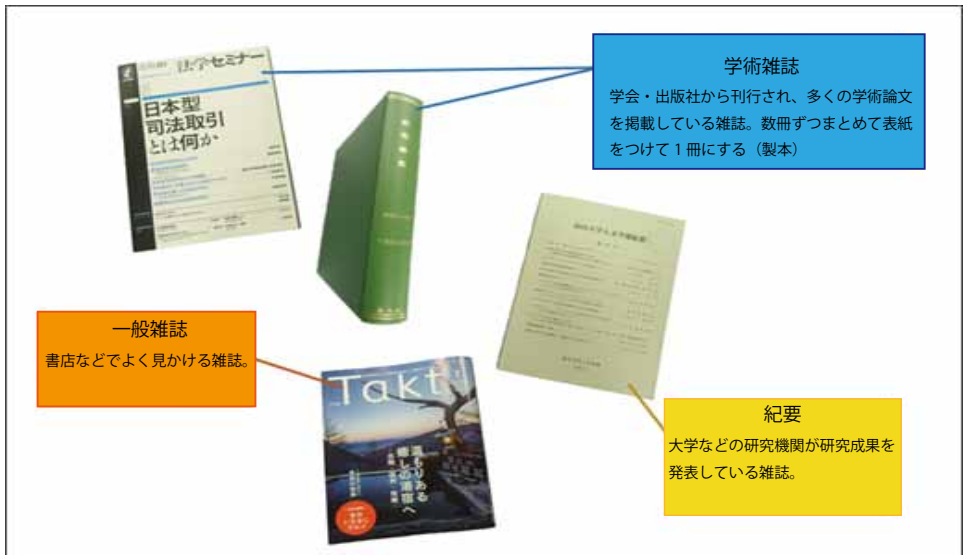


図 3-13 雑誌

### 3.2.3 視聴覚資料

視聴覚資料とは、音声や映像の資料のことです。主に CD・DVD などのことを指します。1 階と書庫に配架してあります。

### 3.2.4 その他(特殊資料)

#### ・地方史資料

2 階の近世文書室では、加賀藩砺波地方の農政記録を集めた川合文書及び菊池文書を収納しています。利用は事前に申し込んでください。

#### ・ヘルン文庫

5 階のヘルン文庫には、ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)の旧蔵書や伝記、研究書などの関係文献が収蔵されており、全国のハーン研究者に広く公開されています。

これまで紹介した 3.2.1 から 3.2.4 の資料は、いずれも物理的に手に取って利用することができるものです。しかし図書館で提供している資料はそれだけではありません。図書館では、インターネット上で利用することのできる様々な電子的コンテンツも整備して、みなさんに提供しています。ここでは、それらを総称して、電子リソースと呼びます。

### 3.2.5 電子リソース

#### ・電子ジャーナル

主に出版社や学会が刊行した学術雑誌を電子化してインターネット上で読めるようにしたものです。大学内のパソコンからしか利用できないものと、無料公開されており自宅などからでも利用できるものがあります。



図 3-14 電子ジャーナル



・電子ブック

図書を電子化して、電子ジャーナルと同様、インターネット上で読めるようにしたものです。

・データベース

図書・雑誌や論文、新聞記事の情報など、学術的な各種情報をそれぞれに収集・整理し、検索できるようにしたものです。無料でどこからでも利用できるものと、大学内のパソコンでしか利用できないものがあります。いろいろな種類のデータベースがあるので、特性を理解した上で、目的に応じて使い分ける必要があります。特に、論文を探すための文献データベースがよく使われています。図書館のホームページから、どんなデータベースがあるのか確認することができます。詳しくは第7章にて紹介しています。



図 3-15 データベース一覧（富山大学附属図書館ウェブサイトより）

### 3.3 図書館では図書館員が待っている！

図書館員は「本の貸出や返却をしたり、並べたりするだけの人」ではありません。みなさんが学習の場面で困った時、それを解決するお手伝いをしてくれる存在なのです。わからないことがあれば、図書館員になんでも質問してみましょう！



図 3-16 図書館カウンター

#### ・ 図書館の基本サービスを使うための質問

多くの新入生にとって、大学図書館はこれまで未知の世界だった場所。足を踏み入れたはいいものの、何をどうしていいかさっぱりわからない、というのは当然のことです。どんな基本的なことでも、恥ずかしがらずにどんどんカウンターに聞いてみてください。図書館員が親切にお答えします。

例えばこんな質問ができます：

- ・ 図書館ってどんな資料があって、どこに置いてあるの？
- ・ 貸出や返却の方法は？
- ・ みんなで話しながら学習できる場所はある？
- ・ コピーしたい時はどうしたらいいの？

など

#### ・ 資料や情報を探すための質問

これから先、みなさんが学習を進めていく中で必ず、図書や雑誌、論文などの情報を探す必要性に迫られることになるでしょう。しかし、ただやみくもに探しても、満足のいく情報入手することは難しいかもしれません。そんな時はぜひカウンターにお尋ねください。

図書や雑誌の探し方、情報を探すための様々なデータベースの利用方法を、基本から丁

寧にお教えます。富山大学の図書館に欲しい資料がなかった時には、他の大学図書館から取り寄せることもできます。

例えばこんな質問ができます：

- ・○○という本を探しているけど、どうやって探せばいいのかわからない。
  - ・読みたい本がこの図書館になかった！どうしたら読めるの？
  - ・データベースを使って論文を探したいけど、どうやって検索するの？
- など

・調べ物をするための質問や支援

学習を進めていく中で迷ったり、つまずいたりした時も、ぜひカウンターにご相談ください。図書館員がみなさんの調べ物のお手伝いをします。

また、図書館では、大学院生スタッフによる「学修相談デスク」を設けています。学習や調べ物で分からないことがあった時や、学生生活を送る上で困った時など、お気軽にご相談ください。みなさんと同じ学生である先輩方が、親身になって答えてくれます。

例えばこんな質問ができます：

- ・○○について調べたいけど、調べ方がわからない。
  - ・レポート課題を与えられたけど、どうやって書けばいいのだろう？
- など

また、図書館では、「レポートの書き方講習会」や「文献の探し方講習会」など、様々な講習会を開催しています。きっとみなさんの学習に活かされる内容になっていますので、ぜひ参加してみてください。

図書館員が行うサポートについては、第6章にも詳しく紹介されています。

### 3.4 演習問題

次の文章の\_\_\_\_\_の部分埋めてみよう。

- ① グループで話し合いながら学習したいときは、2階の\_\_\_\_\_を利用するとよい。
- ② 大学図書館の雑誌は、学術論文が掲載された\_\_\_\_\_が大半を占めている。
- ③ 図書・雑誌や論文、新聞記事などの情報を探したいときに使う\_\_\_\_\_にはさまざまな種類があり、大学内のパソコンでしか使えないものところからでも使えるものがある。
- ④ 困ったときやわからないときは、図書館員のほかにも、大学院生スタッフによる\_\_\_\_\_に質問することができる。



個人的な話しかできず恐縮ですが、私が大学入学以降どのように図書館を利用したかを少し振り返ってみたいと思います。

私が通っていた大学は当時、教養のキャンパスと専門のキャンパスが分かれていました。私は大学入学後すぐに部活動に入ったのですが、活動拠点が教養のキャンパスだったため、専門科目が主になる2年生後期からその部活動からはフェードアウトしました。部活動に行かなくなり、私は初めて大学の授業期間が案外短いことに気が付きました。

私は実家から離れた大学へ通う下宿生だったため、長期休暇毎に地元へ帰るというわけにはいきませんでした。かといって、一応進学を見越して部活動を辞めたりしていたので、バイトを増やすのは良心が咎めました。その結果、長期休暇の間は「勉強している感」を何となく満たしてくれ、かつ冷暖房費も節約してくれる図書館へ通うようになりました。ちなみに、学期中で図書館に行くのはレポートのため調べ物の必要に迫られた場合と、友人と試験勉強をする時ぐらいでした。

図書館へ通う大義名分は次学期の予習と進学へ向けた勉強でしたが、ストイックに机に向かい続けるのにはすぐ限界がきて、別の作業をしたり図書館内を散策したりする時間が自然と多くなりました。一方で、元々の目的と全く別の作業をするのも良心が咎めますので、自分が受講予定の科目のシラバスを他学部・他大学のシラバスと比較したり、色々な研究室のホームページを眺めたりしていました。当時はブラウン管のモニターがまだ一般的だったのですが、図書館には液晶モニターのパソコンがあり、動作も軽快だった記憶があります。それに飽きると、自分の所属部局が改組する前の資料を眺めて教員組織の変遷に感嘆したり、書庫をうろろうして分かりもしない学会誌や論文誌のページをめくったりしていました。これらの半ば現実逃避的に過ごした時間の一部は、今でもよく覚えています。その後研究教育の道に進んでから、現実逃避的にしていた作業の多くは必然的に行わなければならないことだと知りました。結局、私自身があの当時図書館で過ごした時間は、自分自身で物事に気長に向き合い、考え続ける訓練をしたようなものでした。そういう贅沢な時間の使い方ができたのも、今思うと恵まれたことだったと思います。

話は変わりますが、この文章の原稿は途中から電車移動の間にフリック入力ですべて書いています。恥ずかしながら、メ切に追われてのことです。一昔前ならメ切に間に合わないような状況でも、テクノロジーの進歩に助けられてぎりぎりどうにかなっています。私自身はある側面では退化している気がしますが、かと言って無理に昔のやり方に戻すことはしないでしょう。使いたい時に使い、使いたくない時は使わない。それが許されるのは、とても恵まれたことだと思うからです。学生の皆さんが図書館との関係からそのような恵みを受けてくれると、とても嬉しく思います。

# 学修に必要な情報を探す

## 4.1 調べるってどういうこと？

みなさんは、調べ事をするとき、何を使って、どのように調べますか？とりあえずウェブサイトを検索し、何千件、何万件と検索された結果のなかで1番か2番目にヒットしたものを読んで終わりでしょうか。

大学では、自分で情報を収集し、集めた情報を整理して、口頭発表をしたり、レポートを書いたりします。ウェブサイトを検索した結果のなかには、例えば日本政府や学会が公表した統計資料や、大学の教員が書いた論文もあるでしょう。しかし同時に、誰が書いたかわからない、何を根拠にしているのかわからない、あやふやな情報も一緒に検索されています。このことから、調べ物をするときには、情報の確かさに注意する必要があることがわかります。

この章では、本や雑誌についての調べ方を説明します。本や雑誌の情報は誰が書いたかわかる・後で見返すことができるという点で、ある程度信頼できる情報だと判断できます。信頼できる情報を使って調べ物ができるようになるためにも、この章の内容を理解するように努めましょう。

## 4.2 調べ物の入口としての参考図書—辞書・事典

調べ物の入り口としては、テーマの概要・通説を確認することができる辞書・事典を活用しましょう。辞書・事典は調べたい言葉や事象をうまく捉えることができない時、内容を簡潔に把握したり、調べた項目からさらにキーワードをひろったり、参考文献を知ることができたりと、探しもの手がかりを得るには最適の情報源です。

図書館では、辞書や事典のことを参考図書と読んでいます。辞書や事典は、必要な項目を参考にするもので貸出に向かないため、禁帯出、つまり貸出できない資料として、ほかの図書とは別の本棚にまとめて置いてあります。



図 4-1 中央図書館の参考図書コーナー

辞書や事典と聞くと、国語辞典や英和辞典を思い浮かべるかもしれませんが、大学図書館には、国語辞典や英和辞典、百科事典はもちろん、専門辞書などの専門的なことを調べることができるものが揃っています。



図 4-2 代表的な日本史の辞書類

また図書館では、JapanKnowledge (ジャパナレッジ) というデータベースも契約しています。JapanKnowledge では、複数の百科事典・辞書類を同時に検索することができるため、1つの事柄に対し、多角的な視点を得ることができます。(詳しくは 7 章参照)



図 4-3 JapanKnowledge

### 4.3 学問体系を反映する小世界—請求記号とフロアマップ

まず富山大学中央図書館の本を1冊、手にとってみましょう。例えば『大学一年生の文章作法』という本の背表紙を見ると「816 Ya」というシールがついています。

図書館では、本を図書館に受け入れて本棚に並べる前に、本の内容に応じて、背表紙に図4-4にあるような記号をつけています。

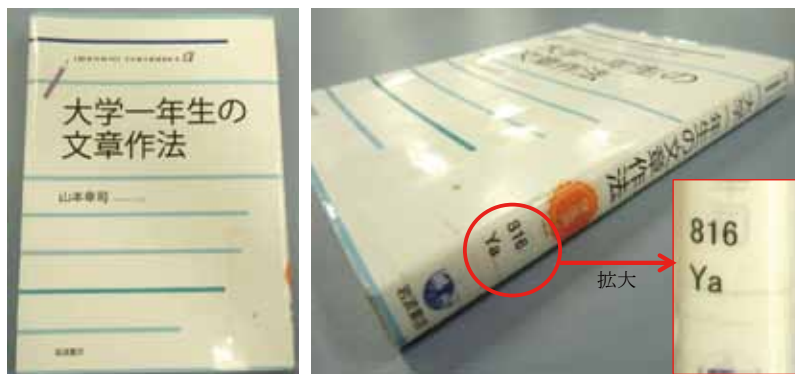


図 4-4 背表紙の請求記号

この記号1段目の「816」という数字は、8は言語、1は日本語、6は文章・文体・作文という意味を表す分類記号です。本の主題として扱っている言語が日本語で、文章についての作法の本には、すべて816という記号がつけられ、棚に並べられます。

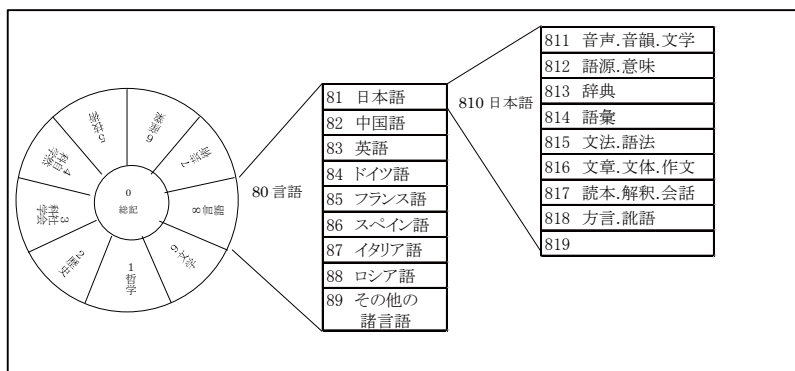


図 4-5 日本図書館協会『日本十進分類法』より



中央図書館では図 4-5 にある『日本十進分類法』に従って背表紙の 1 段目の数字をつけています。例えば日本史の本には 210、原子物理学の本には 429、といった具合です。図書館ではこの記号の 0 から 9 の順に本を並べているので、背表紙についている記号の 1 段目の数字の順がそのまま本の並びも決めることとなります。それと同時に、同じ記号(数字)がついている本は同じような内容を表すため、似たような内容の本がかたまって並ぶ仕組みになっています。この、本の背表紙についているシールを請求記号と呼び、これを頼りに本棚に本を探しにいきます。

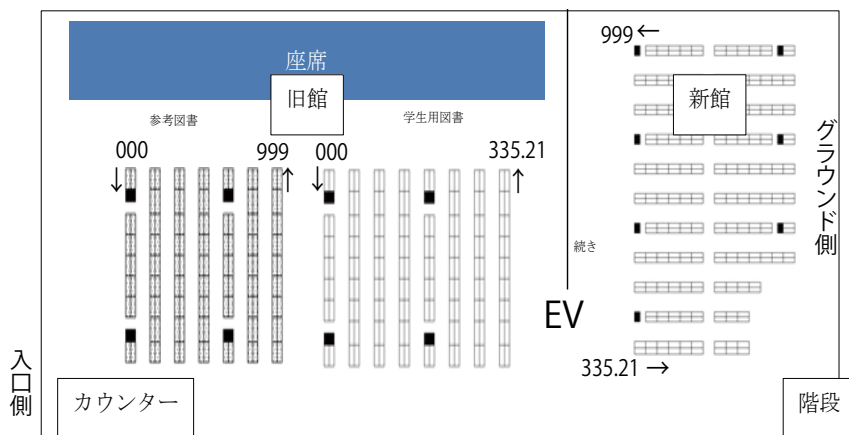


図 4-6 中央図書館 1 階フロアマップ

請求記号 2 段目のアルファベットは、著者記号で、本を書いた人の名前(著者名)をもとに付けられています。図書館の本は、1 段目の分類記号、2 段目の著者記号、3 段目があれば、アルファベットの後、数字の順に並んでいます。自分がこれから勉強する分野の本が、どの請求記号のところにあるのか、確認しておくことが大事です。



図 4-7 本の並び

例えばマーケティングについて調べているとすると、経営管理に関する本は請求記号 336 の棚にあります。また、教育実習に必要な本を調べていて、科目が英語のとき、英語の教育課程・学習指導に関する本を請求記号 375.893 の棚で探すのはもちろんですが、英語のアクセントやイントネーションに関する本を請求記号 831.4 の棚に探しに行く必要もあるでしょう。関連している内容でも、並んでいる本棚が離れることがあるので、実際に自分で本を探してみる事が大事です。

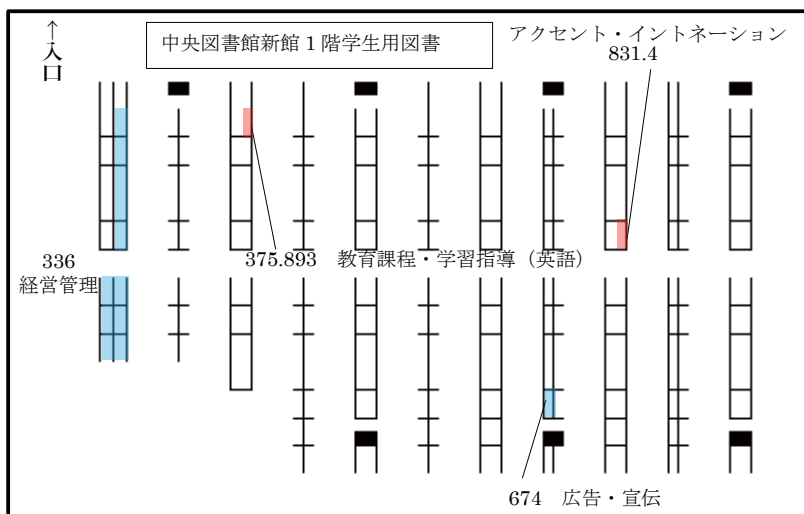


図 4-8 離れた請求記号に注意

## 4.4 図書と雑誌を探す

### —OPAC(オーパック)とCiNii Books(サイニィブックス)

図書館においてある本や雑誌は、請求記号だけでなく、キーワードからも探すことができます。たとえば高齢化社会について調べたいとき、請求記号がわかっている請求記号 367.7 (老人・老人問題) の棚や 334.3 (人口問題・人口政策) の棚を見に行くこともできますが、すべての請求記号を覚えることは難しいと思います。また、特定の本を探していて、その本についての請求記号を知りたい、ということもあるでしょう。そんな時にキーワードをつかって OPAC や CiNii Books というデータベースを検索すると、検索したキーワードを書名や著者名に含む資料を検索することができます。検索結果には、請求記号もあわせて表示されるので、検索された請求記号を頼りに本を探すことができる、という仕組みです。

ここで注意したいのは、OPAC や CiNii Books は、検索したキーワードに OPAC や CiNii Books に入っている本のデータ (書名や著者名など) と合致した場合に検索結果が表示される、ということです。例えば「高齢社会」で検索すると本のタイトルや著者名に「高



#### 4.4.1 富山大学附属図書館 OPAC(オーパック)

それでは、詳しく OPAC の使い方を見ていく前に、OPAC の説明をしましょう。OPAC は、Online Public Access Catalog の略で、オンラインからアクセスできる目録 (= インターネットを使って検索できる本のカタログ) のことを指します。富山大学に所蔵している本や雑誌を検索するときは富山大学の OPAC を、東京大学の所蔵している本や雑誌を検索するときは東京大学の OPAC を使用します。ここでは、富山大学の OPAC の検索方法について、詳しくみていきます。



図 4-10 富山大学中央図書館ウェブサイト

中央図書館のウェブサイトに富山大学附属図書館蔵書検索 OPAC へのリンクがあります。この検索窓に言葉を入れると OPAC を検索することができます。また「蔵書検索(OPAC)」の文字部分をクリックすると図 4-11 に遷移します。この画面からは、詳細検索を行うことができるため、より詳しく条件を指定して検索したいときに便利です。



図 4-11 富山大学附属図書館 OPAC



図 4-12 富山大学附属図書館 OPAC 詳細検索項目を広げたところ

それでは、実際の検索について順をおっていきましょう。  
 探している本のタイトルや著者名（書いた人のこと）などが分かっている場合は、その情報を正確に書いて検索してください。ある事柄について調べたいときは、関連するキーワードを入力して検索します。関連するキーワードを選ぶとき、例えば、1950年代の女性について調べているとすると、「1950年代 女性」と検索してうまくいかなければ、「女性史」で検索するなど、本の書名に使われている（使われていそうな）単語に切り替えて何度か検索することが大事です。

1950年代 女性 検索 クリア

CiNii Books
  CiNii Articles
  JAIRO
  Calli
 富山県内図書館検索

同じキーワードで他のサイトも検索できます。

絞り込み条件 +

選択すべて選択 選択解除
 ブックマーク登録
Text
EndNote Basic
メール(UTF8)

チェック資料を詳細表示

検索件数 並び替え ▾

検索結果: 2 件

- 図書
 

**アメリカの世紀：1920年代-1950年代**  
 有賀真紀, 能登路智子編  
 出版情報 東京：東京大学出版会, 2005.12  
 シリーズ名: 史料で読むアメリカ文化史, 4  
 所蔵情報 貸出可, 中央図一4階, 253.01||T58d||Sh=4
- 図書
 

**広島経済大学創立二十周年記念論文集**  
 広島経済大学編  
 出版情報 広島：広島経済大学, 1988.2  
 所蔵情報 貸出可, 中央図一4階, 041||H62||H6

目次情報 [続きを読む](#)

|                                  |       |
|----------------------------------|-------|
| 【経済学科】ケインズの社会哲学                  | 福島文人著 |
| 中国の経済計画 - 第6次5ヶ年計画を中心に           | 百々和著  |
| 中世末期における為替取引と投機 - 商人=銀行家の企業行動の軌跡 | 山澤善一著 |

図 4-13 富山大学附属図書館 OPAC 「1950 年代 女性」検索結果画面

女性史

検索 クリア

CINA Books
  CINA Articles
  JAIRO
  Call
 [富山県立図書館検索](#)

同じキーワードで他のサイトを検索できます。

絞り込み条件

選択: すべて選択 選択解除

出版年(新しい順) 10 | 50 | 100 件/ページ

1 / 62 ページ

検索結果: 617 件

- 図書
 

**歴史のなかの異性愛**  
船橋早苗 新賞五種編

出版情報: 東京: 創風出版, 2017.6.  
シリーズ名: アジア遊学, 210  
所蔵情報: 研究室蔵出, 人文学部, 383.1|Fu
- 図書
 

**中国のメディア・表象とジェンダー**  
中国女性史研究会編

出版情報: 東京: 研文出版 (山本書店出版部), 2016.9  
所蔵情報: 研究室蔵出, 芸術文化, 367.222|O62c
- 図書
 

**日本女性史事典:トピックス1868-2015**  
日外アソシエーツ編集部編

出版情報: 東京: 日外アソシエーツ, 東京: 紀伊國屋書店 (発売), 2016.4  
所蔵情報: 貸出可, 中央図-1階学生用図書, 367.21|Ni


件数の違いに注目

並び替え機能

図 4-14 富山大学附属図書館 OPAC 「女性史」検索結果画面 -1

読みたい本が検索されたら、検索結果の書名をクリックします。

3.  図書



**日本女性史事典:トピックス1868-2015**

日外アソシエーツ編集部編

出版情報: 東京: 日外アソシエーツ, 東京: 紀伊國屋書店 (発売), 2016.4  
所蔵情報: 貸出可, 中央図-1階学生用図書, 367.21|Ni

図 4-15 富山大学附属図書館 OPAC 「女性史」検索結果画面 -2

検索結果の書名をクリックすると、図 4-16 のように詳細画面が表示されます。状態・所在・請求記号を確認し、該当の本棚へ探しにいきます。

日本女性史事典：トピックス1868-2015

フォーマット: 図書

責任表示: 日外アンソニーン編集部編

言語: 日本語

出版情報: 東京: 日外アンソニーン  
東京: 紀伊館書店 (丸亀), 2016.4

形態: 7,490p : 21cm

著者名: 日外アンソニーン編集部 <DA17607781>  
日外アンソニーン <DA00046249>

書誌ID: BB21032662

ISBN: 9784816925986 [4816925986]

| 状態  | 所在         | 資料ID        | 請求記号         | 返却予定日(予約数) |
|-----|------------|-------------|--------------|------------|
| 貸出可 | 中央館-1階学芸図書 | 20161005510 | 367.21<br>Ni |            |

図 4-16 富山大学附属図書館 OPAC 詳細画面

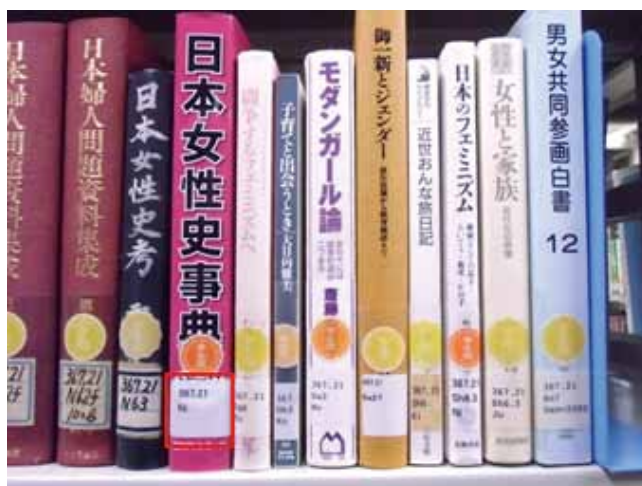


図 4-17 請求記号 367.21||Ni を頼りに本棚を探すと該当の本が並んでいる



#### 4.4.2 CiNii Books(サイニィブックス)

次は、全国の大学図書館の所蔵している本や雑誌を検索することができるデータベース、CiNii Books について説明します。簡単に言うと、富山大学附属図書館 OPAC は検索された本が富山大学のどこにあるか調べるもの、CiNii Books は検索された本が日本の大学のなかでどこの大学にあるのか調べることができるものです。CiNii Books を使うと、富山大学の図書館にある本を検索対象にする富山大学附属図書館 OPAC を検索するよりも、はるかに多くの本・雑誌について調べることができます。CiNii Books の検索結果からは富山大学に所蔵しているか・していないかわかるので、必要に応じて、より広い範囲の本・雑誌を対象に検索できる CiNii Books を活用しましょう。

CiNii Books は中央図書館のウェブページにある「よく使うデータベース」から利用することができます。

富山大学附属図書館  
中央図書館  
University of Toyama Central Library

home お知らせ 利用案内 電子情報サービス 資料を探す 特殊コレクション リンク

開館カレンダー  
2018年1月16日  
本日の開館時間  
8:45~22:00

お問い合わせ・  
アクセスはこちら

中央図書館ニュース  
Lili  
LIBRARY LIFE

蔵書検索(OPAC)  検索 クリア

My Library  
・ ログイン  
・ 利用の手引

クイックリンク  
・ 図書館サイト  
・ 電子ジャーナルリスト  
・ よく使うデータベース  
・ 富山大学刊行物

お知らせ

2018/1/5 月刊「Library Life」の31号を発行しました

2018/1/5 企画展示「サンフォルデ派回文書」を開催中です！

2018/1/5 玉用印書をお取り扱いします

2017/11/29 企画展示「ぼかぼか本」特展はじまりました

よく使うデータベース

CiNii Articles 全分野 【一部学内限定】

日本の学術論文を中心とした論文情報を提供するサービスです。学協会刊行物に掲載された論文と、国内の大学等が刊行する研究紀要、国立国会図書館の雑誌記事索引データベースなどを含む膨大な論文情報から目的の論文にナビゲートします。なお、論文情報からリンクしている学会誌の論文本文の一部は、学内からのみ利用が可能です。

CiNii Books 全分野

全国の大学図書館が所蔵する本（図書や雑誌等）の情報を提供するサービスです。最近の本だけでなく、古典籍、洋書、CD、DVDなども幅広く検索することができます。所蔵館を地域で絞り込んだり、OPACへのリンク機能などもあります。

Web of Science 全分野 【学内限定】

図 4-18 CiNii Books へのリンク

CiNii Books のトップページは図 4-19 のようにひとつの検索窓が表示されています。詳細検索をクリックすると、より詳しく検索項目を指定して検索することができます。



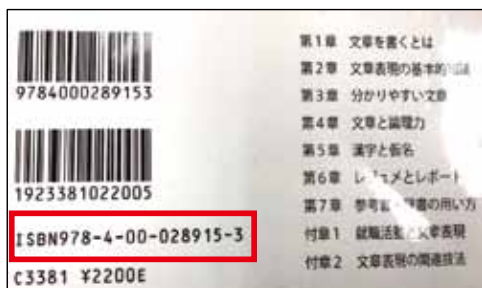
図 4-19 CiNii Books トップページ



図 4-20 CiNii Books 詳細検索画面

探している本のタイトルや著者名（書いた人のこと）などが分かっている場合は、その情報を正確に打ち込んで検索してください。ある事柄についての本を探たいときは、関連するキーワードを入力して検索します。ただし、検索に選んだキーワードを書名や著者名等を含む本や雑誌のみ検索される（本の内容が関連していても、検索に使用したキーワードが本の書名や著者名に一致しなければ検索されない）ことに注意しましょう。

フリーワード検索窓にキーワードを入れて検索すると、検索したキーワードが図書・雑誌名、著者名、出版者、ISBN 等のどこかに合致した本・雑誌が検索されます。



☞ISBNは、世界共通で図書を特定するための番号です。本の背表紙などに書いてあります。

図 4-21 ISBN (International Standard Book Number)



図 4-22 CiNii Books 検索結果画面

検索された本についての詳細情報は、書名をクリックすると表示されます。

大学生のICT活用標準テキスト

富山大学情報処理教育部会情報処理テキストワーキンググループ著  
富山大学出版会, 梧桐書院 (発売) 2017.4 第11版 大学生の情報リテラシー / 富山大学情報処理教育部会著, 2017年版  
所蔵館43館

富山大学 検索

すべての資料 図書 雑誌 詳細検索

大学生のICT活用標準テキスト

富山大学情報処理教育部会情報処理テキストワーキンググループ  
トヤマダイガクショウホウショリキョウイクブ  
カイショウホウショリテキストワーキンググループ

関連文献: 1件 ↓

本についての情報

書誌事項

大学生のICT活用標準テキスト  
富山大学情報処理教育部会情報処理テキストワーキンググループ著  
(大学生の情報リテラシー / 富山大学情報処理教育部会著, 2017年版)  
富山大学出版会, 梧桐書院 (発売) 2017.4 第11版

タイトル読み ダイガクセイノICTカンヨウヒョウジュンテキスト

全国の大学図書館の所蔵状況

大学図書館所蔵 43件 / 全43件

すべての地域 すべての図書館 OPACリンクあり

|               |      |
|---------------|------|
| 富山大学 附属図書館    | OPAC |
| 愛知淑徳大学 図書館    | OPAC |
| 追手門学院大学 附属図書館 | OPAC |
| 桜美林大学 図書館     | OPAC |

緑色のOPACボタンをクリックすると各大学のOPACで所蔵状況を確認できる

図 4-23 CiNii Books 詳細表示画面

詳細表示すると、画面のなかほどに大学図書館の所蔵が表示され、どの大学に所蔵しているのかを確認することができます。

CiNii Books で検索された本が富山大学にない場合は、送料実費で取り寄せできます。取り寄せ方法については、4.6節を参照してください。

また、富山大学附属図書館 OPAC の検索対象は富山大学に所蔵する本・雑誌、CiNii Books で検索できる本は、基本的に日本の大学図書館に所蔵する本・雑誌なので、結果的に日本で発行されている日本語の資料が検索対象の多くを占めています。OPAC や CiNii Books では自分が調べたい内容の資料を検索できそうにないときは、世界の図書館の所蔵情報を検索できるデータベース WorldCat を利用してください（詳しくは第7章参照）。

#### 4.5 雑誌論文（日本語）を探す—CiNii Articles(サイニィアークルズ)

CiNii Articles は、学術論文情報を検索対象としているデータベースです。学術論文は、研究者が研究の成果を執筆した論文のことで、学術出版者や学会が出版している雑誌で発表されます。図4-24は、地域生活学研究会が発行している学術雑誌『地域生活学研究』です。学術雑誌には、図4-25のような学術論文が掲載されています。

学術雑誌や学術論文という言葉は、例えば、京都大学の山中伸弥先生のノーベル医学生理学賞の受賞理由となった学術論文「Induction of pluripotent stem cells from mouse embryonic and adult fibroblast cultures by defined factors」は『Cell』という学術雑誌の2006年刊行126巻4号663-676ページに掲載されている、といった具合に使います。



図 4-24 学術雑誌



図 4-25 学術論文

OPAC や CiNii Books では、学術雑誌のタイトル『地域生活学研究』（図4-24）は検索できますが、論文のタイトル「景観紛争の科学」で読み解く太陽光発電施設の立地問題」（図4-25）は検索できません。論文のタイトルを検索するときには CiNii Articles を使います。最初は混乱するかもしれませんが、何度か検索するうちに慣れてきます。どのデータベースが何を検索するときに見えるものなのかを意識して使い分けましょう。

CiNii Articles は中央図書館のウェブページにある「よく使うデータベース」から利用することができます。



### よく使うデータベース

[CiNii Articles](#) **全分野** 【一部学内限定】

日本の学術論文を中心とした論文情報を提供するサービスです。学協会刊行物に掲載された論文と、国内の大学等が刊行する研究紀要、国立国会図書館の雑誌記事索引データベースなどを含む膨大な論文情報から目的の論文にナビゲートします。なお、論文情報からリンクしている学会誌の論文本文の一部は、学内からのみ利用が可能です。

[CiNii Books](#) **全分野**

全国の大学図書館が所蔵する本（図書や雑誌等）の情報を提供するサービスです。最近の本だけでなく、古典籍、洋書、CD、DVDなども幅広く検索することができます。所蔵館を地域で絞り込んだり、OPACへのリンク機能などもあります。

[Web of Science](#) **全分野** 【学内限定】

図 4-26 CiNii Articles へのリンク

CiNii Articles のトップページは図 4-27 のようになっています。フリーワード検索欄に検索したい言葉を入れて検索するか、タイトルや著者名などより詳しく検索項目を指定して検索することもできます。



図 4-27 CiNii Articles

論文のタイトルや著者名（書いた人のこと）などが分かっている場合は、その情報を正確に書いて検索してください。ある事柄について論文を探したいときには、関連するキーワードを入れて検索してください。フリーワード検索窓にキーワードを入れて検索すると、検索したキーワードを論文名、著者名、抄録等のどこかに合致した論文が検索されます。



図 4-28 CiNii Articles 検索結果画面

検索された論文についての詳細情報は、論文名をクリックすると表示されます。



図 4-29 CiNii Articles 論文詳細表示画面

CiNii Articles で検索できるのは、論文名、著者名、抄録等の情報で、基本的に本文までは検索できませんが、なかには、論文そのものを画面でみる事ができるものがあります。

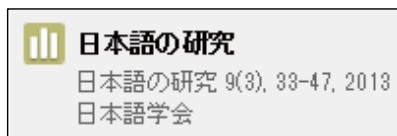


図 4-30 CiNii Articles 論文詳細表示画面：本文等へのリンク

このように黄色いアイコン（図 4-30）が表示された場合は、そのアイコンをクリックしてみましょう。本文を画面に表示できる場合があります。



黄色いアイコンが出ない・クリックしても読めなかった場合は、収録刊行物情報（図 4-31）を参照し、この論文が何という雑誌の何巻何号何ページに掲載されているかを確認してから、「この論文をさがす」部分にある「富山大学 OPAC」（図 4-32）をクリックしてください。



刊行物名  
巻号・ページ数・出版年月日  
出版者名

図 4-31 CiNii Articles 論文詳細表示画面：収録刊行物



図 4-32 CiNii Articles 論文詳細表示画面：この論文をさがす

富山大学に所蔵していれば、次のような画面が表示されます。



図 4-33 CiNii Articles から OPAC 検索

図 4-31 で確認した巻号数が図書館に所蔵しているかを確認し、該当の所在場所まで雑誌を探しに行きます。

中央図書館では、雑誌は 2 階と 3 階にわけて置いてあります。2 階には主に国内刊行雑誌、3 階には国外刊行雑誌が並んでいます。2 階は雑誌タイトルの五十音順（タイトルがアル

ファベットから始まるものはアルファベット順)、3 階は雑誌タイトルのアルファベット順に並んでいます。



図 4-34 中央図書館 2 階雑誌架



↑『日本語の研究』はこの棚

雑誌は年代順に並んでいるので、図 4-29 の収録刊行物情報を確認しながら該当の巻を探します。



図 4-35 中央図書館 2 階雑誌架：日本語の研究

該当の巻号・ページ数のところを開くと、探していた論文を見つけることができます。

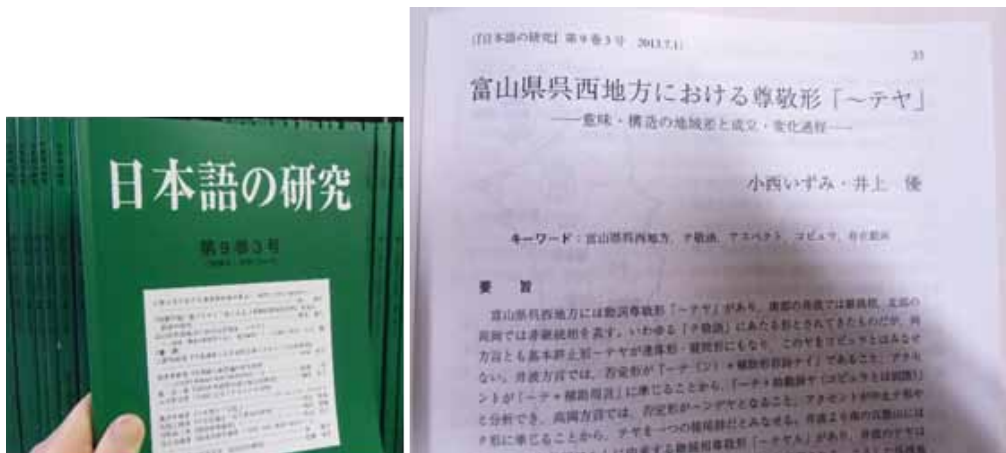


図 4-36 日本語の研究 9(3),33-47

CiNii Articles で検索できる論文は、日本で発行されている資料が多くを占めています。海外で発行された論文を検索したいときは、Clarivate Analytics 社が収録している、査読誌を対象に文献検索できる Web of Science や、さまざまな分野の学術資料を検索できる Google Scholar を使って探すようにしましょう（詳しくは第 7 章参照）。

## 4.6 探した図書・雑誌・論文を利用する一貸出・文献複写

### 4.6.1 図書の貸出について

中央図書館では、図書は 14 日以内で 10 点の貸出を行うことができます（学部学生の場合）。自動貸出返却装置を使い自分で貸出・返却処理を行ってください。また、予約が入っていない場合は、1 回に限り延長処理も行うことができます。自動貸出返却装置の使い方は、次のとおりです。



図 4-37 カウンター横の自動貸出返却装置



図 4-38 自動貸出返却装置の使い方

①自動貸出返却装置の前に立ち、画面がどのように切り替わったら希望の処理ボタンをタッチします。

②装置の右下にある IC カード読み取り機に学生証をかざすか、カード挿入口から、学生証を入れます。

③本を台の上に置き、バーコードを読み取らせます。  
このとき、1冊ずつ、バーコードの面を上にして、背表紙が奥のバーに当たるように置いて下さい。



④手続きが終わったら、本を受け取って、終了/Close ボタンを 押します。  
貸出・延長のときは、タイトルや返却期限が記載されたレシートと学生証が出てくるので受け取ります。

#### 4.6.2 雑誌の複写について

中央図書館では、雑誌の貸出は行っていません。必要な個所のみ複写（コピー）して利用してください。コピー機は、中央図書館1階らせん階段下にあります。生協で購入できるコピーカードまたは硬貨で利用可能です。



図 4-39 コピー機

図書館においてあるコピー機は、図書館の資料をコピーするためにおいてあるものです。図書館の資料をコピーする際は、カウンターまたはコピー機横においてある“館内資料複写申込書（セルフコピー用）”に記入するようにしてください。

#### 4.6.3 図書貸借・文献複写について

自分の読みたい本や論文が富山大学にない場合、県内公共図書館や他大学から本を取り寄せる（図書貸借）サービスと、論文のコピーを取り寄せる（文献複写）サービスを行っています。申し込み方法は、次の通りです。

- ①富山大学附属図書館 OPAC を使用し、読みたい本や雑誌が大学に所蔵していないか確かめます。所蔵がない場合は「○○○(検索した言葉)に一致する資料は見つかりませんでした。」と表示されます。雑誌の場合、図 4-40 のように該当の資料が検索できない場合と、図 4-33 のように検索できても、読みたい論文が掲載された巻号数を所蔵していない場合は、図書館にはありません。



図 4-40 富山大学 OPAC 検索結果画面

- ②学外から取り寄せて読みたい場合は My Library 「ILL 文献複写・図書貸借」から学外手配の申し込みを行います。



図 4-41 My Library ILL 文献複写・図書貸借

「新規複写依頼」…論文のコピーを取り寄せるときに選択します。通常、他大学より雑誌そのものを取り寄せて貸出することはできないため、論文を入手したい場合は複写物（コピー）を取り寄せします。

「新規貸借依頼」…本を取り寄せるときに選択します。

- ③「新規複写依頼」または「新規貸借依頼」を選択すると依頼画面に遷移します。必要事項を記入したら、入力内容確定をクリックして申込み完了です。到着までには 3～10 日かかります。到着後は My Library に登録されているメールアドレスに到着連絡があります。取り寄せた資料は、料金と引き換えにお渡しします。

料金について…本の取り寄せ：往復の送料 約 1,000～1,500 円

(本の大きさ・重さによって料金が異なります)

論文の取り寄せ：コピー 1 枚 35～50 円+送料 約 200 円

(コピーする枚数・送料によって料金が異なります)

ILL (文献複写・貸借) 依頼

ILL 新規依頼

依頼窓口: 中央図書館 | 依頼日: 2018/01/19

依頼日/学生: | 所属(学科):

依頼区分: 貸借 | 貸借依頼はこちら

支払区分: 図書費 | 図書費

予約: |

複写種別: 電子複写 | 依頼の範囲: 国内まで(国外含む)(海外への手配は事前に担当室から電話連絡します。)

送付方法: 書送郵便(空箱) | 空箱の場合は送料等で取り寄せますので、料金は割増になります。)

下記の検索サイトを利用し、書名等の情報を取り込みます。検索条件を入力し「検索」ボタンをクリックしてください。

フリーワード | 出版者 |

書名 | ISBN/ISSN |

著者名 | 雑誌ID |

論文名 |

学内所蔵検索: 本学の所蔵を検索し、書名等の情報を取り込みます。

CiNii Books検索: 全国大学図書館等の所蔵を検索し、書名等の情報を取り込みます。

CiNii Articles 検索: CiNii Articlesを検索し、書名等の情報を取り込みます。

取り込み機能を使うとタイトルや著者名を申込み情報に反映させることができます。

図 4-42 My Library ILL 文献複写・図書貸借 新規依頼画面 -1

|   |  |   |
|---|--|---|
| 図書館名  | ○ 図書館  |   |
| 書名または雑誌名  | <input type="text"/><br><small>・書名または雑誌名がわからない場合は、下欄に記入してください。<br/>         ・著者(氏)や編者(氏名)も記入してください。(例)研究雑誌「研究」</small>   |   |
| 著者名   | <input type="text"/>   |   |
| ISBN/ISSN   | <input type="text"/>   | ISSNとは、ISBN.10桁(雑誌)は1桁の0を含め、0.9.9.9.9.9.9.9.9.9 |
| 巻数(冊)   | <input type="text"/>   |   |
| 出版年   | <input type="text"/>   |   |
| 巻号  | <input type="text"/>   | 年次 <input type="text"/>                         |
| ページ   | <input type="text"/>   |   |
| 論文名   | <input type="text"/>   |   |
| 論文の著者   | <input type="text"/>   |   |
| 送附希望  | <input type="checkbox"/> 県内の公共図書館から取り寄せたい場合<br><input type="checkbox"/> 図書館にあり・取寄希望<br><input type="checkbox"/> 学内の研究室から取り寄せたい場合<br><input type="checkbox"/> 学部内にあり・取寄希望 等記入してください。  |   |
| 資料形態  | <input type="checkbox"/> 引伸資料あり <input type="checkbox"/> J-Gate <input type="checkbox"/> Articles <input type="checkbox"/> JNDL <input type="checkbox"/> OPAC <input type="checkbox"/> PubMed <input type="checkbox"/> 他種Web<br><input type="checkbox"/> その他<br><small>上記欄中に「資料形態」を選択してください。</small> |   |
| 所蔵地別  | <input type="text"/>   |   |
| 学内取寄を希望しましたか?<br><input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |  |   |
| <input type="button" value="入力内容確認"/> <input type="button" value="クリア"/>  |  |   |

図 4-42 My Library ILL 文献複写・図書貸借 新規依頼画面 -2

県内の公共図書館に所蔵があれば、無料で取り寄せることも可能です。ただし、入手まで時間がかかることがあります。また、研究室に所蔵がある場合は、図書館から利用可能か問い合わせます。県内の公共図書館や研究室から取り寄せたい場合は、その旨連絡事項に記入してください。この2つの取り寄せについては、料金はかかりません。

県内の公共図書館の所蔵状況を調べる時は、富山県内図書館横断検索（詳しくは第7章参照）を使います。研究室に所蔵がある時は、富山大学附属図書館 OPAC を検索したとき、所蔵情報にある状態が「研究室貸出」、所在が学部等の名前が表示されるようになっています。



## 4.7 演習問題

次の①、②は、本あるいは学術論文の情報です。この①と②で示された本あるいは学術論文が富山大学で読むことができるかどうか確認してください。確認するときは、富山大学附属図書館 OPAC、CiNii Books、CiNii Articles のデータベースのうち、どれかを使用してください。検索するときに使用したデータベースの名前と、検索するときに使用したキーワードを答えてください。

読むことができる場合は、図書館のどこにあるのか（配架場所）と、本の場合は請求記号を書いてください。

①石井一成（2011）『ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方』ナツメ社

|  |  |
|--|--|
| 使用したデータベースの名前  |  |
| 使ったキーワード   |  |
| 配架場所   |  |
| 請求記号(本の場合)   |  |
| 探し方のメモ<br>(例)<br>本の情報なのでOPACかCiNii Booksで調べる必要あり<br>→富山大学にあるかどうか調べるのでOPACを使う<br>→書名を入れて検索<br>→検索できたので所蔵がある |  |

②西條 好迪, 吉井 亮一, 北原 正宣 (2001)「ライチョウの営巣環境としてのハイマツ植生」『環境技術』,30(6),454-459

|  |  |
|--|--|
| 使用したデータベースの名前  |  |
| 使ったキーワード   |  |
| 配架場所   |  |
| 請求記号(本の場合)   |  |
| 探し方のメモ<br>(例)<br>本の情報なのでOPACかCiNii Booksで調べる必要あり<br>→富山大学にあるかどうか調べるのでOPACを使う<br>→書名を入れて検索<br>→検索できたので所蔵がある |  |

# 「学士力・人間力基礎」で学ぶ アカデミックスキル

## 5.1 「学士力・人間力基礎」で学ぶアカデミックスキル

### —理由編—

#### 5.1.1 アカデミックスキルとは

「学士力・人間力基礎」で育成すべき力を支えているのが、アカデミックスキルと呼ばれる技術です。これは、大学で学ぶため、またはそれを発信するために必要な基礎技術といえます。具体的にその一端を示せば、情報収集を適切に効率的にするための技術、アンケートやインタビュー等の調査を企画し、実施できる技術、レポートや論文を執筆して発表することができる技術等ということになります。みなさんにこの授業、「学士力・人間力基礎」を受講することを通して、この技術を身に付ける準備をしてほしいと思います。

もちろんこの授業を受講しただけで十分なアカデミックスキルが身につくわけではありません。みなさんはこれから4年間、大学で学び続けることによって少しずつスキルを身に付け、さらに磨きをかけていく必要があります。この授業を受講することによって、みなさんが明確にアカデミックスキルを意識し、身に付けていくためのきっかけとなることを期待します。

#### 5.1.2 社会で活躍するために

大学で4年間学んだ後、みなさんはそれぞれの場所で社会に出て自立していかなければなりません。社会で自立して活躍していくために、是非「学士力・人間力基礎」で学んだことを活用してください。論理的思考力や批判的思考力は、社会に出て仕事をする上で非常に役に立ちます。

例えば、文書で仕事の依頼をするときに、どんな仕事をして欲しいのか以外に、その仕事（全体の中で）どのような意味を持っているのかや、なぜその人に頼むのかといったことが、理路整然と説明されていると引き受ける方も納得して仕事を引き受けることができます。人に何かを説明をするときも同様です。このように思考が論理的（logical）であれば、スムーズに仕事を進めることができます。

批判的思考についても同様です。仕事を頼まれたとき、言われたことをさっさとやることも重要です。一方で、立ち止まってなぜ自分にその仕事が回ってきたのか、自分がどのように処理すると続けて仕事をする人に負担がかからないのかといったことに考えを巡らすことも必要だと思いませんか。日頃から批判的思考を意識していれば、何事に対しても自ずと適切な判断ができるようになります。これが脱「与えられた仕事をこなすだけの人間」になるということです。

#### 5.1.3 レポートを書く理由、または書かなければならない理由

現在のところ大学において最終試験としてレポート課題を出す授業は少なくありません。ま

た、大学を卒業するためには、多くの場合卒業論文を書く必要があります。さらに社会に出ても、レポートの類を求められることは少なくありません。その際、レポートや論文の作成で身につけたアカデミックスキルは、後々でも何かと役に立つはずで、取り敢えず目の前の単位を得るためではなく、この授業で学び始めることは生きるために役立つ知的訓練をしているのだと考えると良いでしょう。

## 5.2 「学士力・人間力基礎」で学ぶアカデミックスキル

### —内容編 1（概説）—

本節では、レポートをまとめる際に必要となる論理的表現力について、具体例（主に問題例）を挙げながら、確認していきます。

#### 5.2.1 レポートと感想文の違い

これまでたくさんのレポートを見てきましたが、「これじゃあ感想文だよ」と思うことが少なくありません。では、レポートと感想文はどのような点で違うのでしょうか。くり返しになりますが、レポートは、ある観点から見て、論理的に展開された結果、辿り着く結論を述べたものです。

具体的には、考えを述べるときに、主語は「私は」であってはいけません（海外の論文では「我々は」で始まる場合もありますが、その場合は私見を述べているわけではなく、「我々の学派の立場に立てば」の意味です。）。文末形式も「～と思う」や「～と感じた」であってはいけません。ではどのような文末表現を用いるべきなのでしょう。代表的な論理的思考を表す表現である、「～となる」（論理的思考の結果）や「～と考えられる」（誰が考えても当然そうなる）を使うと良いでしょう（「～と思われる」も比較的主観的が強く避けられるべき表現です）。

併せて、感想文ではないのですから、「面白かった」や「興味をかき立てられた」や「よく分からなかった」等の表現も避けるべきです。読み手・聞き手が期待するのは（ある観点からは）誰が考えてもそうなるという結論です。はっきり言えば、多くの読み手・聞き手はあなたの個人的な思いには興味がないのです。レポート・論文を書くときに、一貫してぜひこのことを留意しておいて欲しいと思います。

#### 5.2.2 良くない表現の具体例

これまで多くの感想文的な、(自称) レポートを見てきました。その中には、最後に堂々と「感想」という節を設けている場合さえありました。ではどのような表現の文が感想文的と捉えられるのでしょうか。レポートには課題に対して自分がどのように考えたかを書くことが求められます。課題の解決に繋がる内容と関係ないことは書くべきではありません。感想文的レポートを一言で言えば主観的な立場から述べられたものということになります。以下、その具体例を見ていきます。

### ①主観的な感想を書く

「～が分かった」とか「～で良かった」等に注意。典型的な感想文のコメントです。小学校で書く作文かと錯覚してしまいそうです。またありがちな表現として「いろいろなこと」や「深く」等があります。個人的に「それは具体的にどんなことですか」と小一時間問い詰めたくなります。これらの言葉は注意して安易に使わないようにしてください。

(悪い例)

- ・この本を読んで、いろいろなことが知れた。(「いろいろなことを」でしょ! 「知れた」は間違いでしょ! 見つけるとちょっとイラっとします。)
- ・この授業を通して深く学ぶことができた／レポートを書いていて楽しかった／この課題はとても難しかった／言いたいことが言えなかった (こんなことは授業のリアクションペーパーに書いてください。)

### ②自分のことを書く

レポートの中になぜか「(私は) ～と思った」や「～に驚いた」といった個人の体験が書かれている。読み手・聞き手は、あなたの反省文を読みたいわけではありません。そんなことを書く暇があれば、1行でもいいからあなたのオリジナルな見解を聞きたいと思います。

(悪い例)

- ・真実を知って驚いた／勉強不足を痛感した／もっと学びたいと思った／目からウロコが落ちた (はい、そうですか、だったら勉強しなさいという感じ。)
- ・先生の授業をもっと受けたいと思った／こんな面白い授業は初めてだ (嘘つけと思います。)

### ③将来の希望(予定)を書く

レポートにおいて、今後の予定について書いておくことは重要です(卒業論文でも「今後の課題」として1章設けるくらいです)。ただし、それはこのレポートの考察を振り返って、資料収集の不備・不足や、考察において配慮が足りなかった点等を反省する場合を指しています。ですから具体的であればあるほど良いことになります。一方で、「もっとがんばりたいです」や「機会があれば～」のような主観的な思い(感想)はまったく必要ありません。

(良い例)

- ・今回の調査では、調査対象で女性が多く、性別に偏りがあった。次回の調査ではその点を考慮して調査を依頼したい

(悪い例)

- ・今回は準備不足だったので次はもっとがんばりたい／機会があれば、また調査したい。(しつこく繰り返しますが、多くの読み手・聞き手はあなたの個人的な思いには興味がないことをけっして忘れないでください。)

## 5.3「学士力・人間力基礎」で学ぶアカデミックスキル

### —内容編 2（資料検索）—

実際レポートを書くときに、どのようなことから始めるべきなのでしょう。課題を決めたら、それに関する先行文献（「先行研究」・「既往研究」とも）を調べることから始めると良いでしょう。資料集めの具体的な方法としては、次のようなものがあります。

- ①図書館の中を歩き回り、関連しそうな文献を調べる。
- ②書籍や論文の巻末の参考文献リストを確認する。
- ③インターネットで学会や図書館・研究所等の専門機関の検索サイトを利用する。
- ④先輩や先生に相談する。

①から③の文献の探し方の具体的な方法は、図書館主催の講習会でも学べます。特に図書館の使い方やパソコンを使った文献の検索の仕方は研究活動を進めるにあたって最も基本的なアカデミックスキルとなりますので、かならず身に付けてください。なお、資料検索の方法は本テキストの「第4章 学修に必要な情報を探す」等を参照すると良いでしょう。

## 5.4「学士力・人間力基礎」で学ぶアカデミックスキル

### —内容編 3（引用）—

#### 5.4.1 著作権と引用

みなさんが web サイトや書籍等を通じて手に入れた情報には、基本的に著作権があると覚えてください。簡単に言えば、それらの情報は、かならず誰かに使用の権利が属するものであり、勝手に使用したり、改変（内容はもちろん表現を変えることもこれにあたります。）したりすることは違法になるということです。よって、みなさんがレポート等の文章を書くとき、著作権に十分に配慮して書くことが求められます。レポートを書くとき、絶対してはならないこととして、次のようなものがあります。

#### ①無断引用

誰かの書いたもの（文章やレポート）を、出典等を明確にせず、勝手に自分の文章に取り込むことです。分かりやすく言うと、コピー（丸写し）です。無断引用が故意に行われたかどうかは関係ありません。無断引用があれば有無をいわず減点対象です。

#### ②無断改変

誰かの書いたものの一部を書き換えて、自分の文章に取り込むことです。多くの場合無断引用や盗用がばれないように、改変することになります。

#### ③盗用

誰かの書いたものを故意に自分の書いたもののように示すことです。

#### ④代筆

誰かに変わってレポートを書いてもらうことです。最悪の場合、依頼した人もされた人も罪に問われることがあります。減点どころか審査の対象にすらなりません。

基本的には、①から④の順で悪質な行為という認識になります。(ということで、レポートの代筆は絶対やめてください。)

#### 5.4.2 引用は誤りか

ここまでの話を読んで、もしかしたらレポートで引用することは誤りなのかと誤解した人がいるかも知れません。議論の前提として、枕として他人の考えを借用(引用)することは正当な論証の手段です。そもそも誰の考えや意見にも依らず、完全にオリジナルな考えを創出することはほぼ不可能です。どのような意見・主張でも誰かの考えを踏み台にして創造されたものと言って良いでしょう。他人の文章や図、写真等の著作物を自分のレポートや論文に利用した場合、適切に「引用」すればまったく問題ありません(学問分野によっては、論文の第1節でかならず先行研究の整理から入る場合もあります)。

前節で挙げたような著作権侵害が起こるのは、他人の文章等を、作者の許諾も得ず、引用したことも曖昧にして、あたかも自分の文章であるかのように文章に取り込んでしまったときです。

ではどのような形式(書き方)であれば、適切な引用と認められるのでしょうか。次に簡単に引用の要件を「引用」してみます(筆者が適宜改行)。

引用と言えるためには、

- [1] 引用する資料等は既に公表されているものであること、
- [2] 「公正な慣行」に合致すること(例えば、引用を行う「必然性」があることや、言語の著作物についてはカギ括弧などにより「引用部分」が明確になってくること。)、
- [3] 報道、批評、研究などの引用の目的上「正当な範囲内」であること、(例えば、引用部分とそれ以外の部分の「主従関係」が明確であることや、引用される分量が必要最小限度の範囲内であること)、
- [4] 出所の明示が必要なこと(複製以外はその慣行があるとき)(第48条)の要件を満たすことが必要です(第32条第1項)。

出典:「著作権なるほど質問箱 関連用語”引用”」(文化庁)

(URL: <http://www.bunka.go.jp/chosakuken/naruhodo/> 2018-03-19 参照)

「引用」するにあたって、注意することは、次の三点です。

①引用であることを明記する。

「～によれば」や「～とされている」といった形式を用いてください。引用部が長くなる場合は、改行して一行空けるといった形式もよく用いられます。

②一字一句正確に引用する。

句読点の位置も含め、正確に書き写してください。“,”を“、”に改めたり、旧漢字を改めたり、漢数字を算用数字に改めたりといった程度の改変は許容範囲であるとされることが多いです。

③引用先（出典）を示す。

書籍や雑誌論文であれば、書誌情報を明記します（参照文献の整理の仕方は5.4.6節を参照してください。）

### 5.4.3 引用の方法

実際にレポートの中での引用の仕方について説明します。引用には直接引用と間接引用とがあります。順に説明していきます。

例えば、引用先の文献の原文として次のような文章があるとします。

#### 【例文】

日本語の表現に「体験」と「知識」という2つの類型を設けることは、確固とした常識として定着しているようなものではない。だが、体験か知識かの区別はさまざまな表現の意味用法に関わっているのではないだろうか。

（定延（2006）「動態表現における体験と知識」、『日本語学の新天地』、p.51、くろしお出版）

まず直接引用について整理します。直接引用の場合、以下のような三つの方法があります。引用部前後の形式にも注意してください。

①全文引用する

「日本語の表現に「体験」と「知識」という2つの類型を設けることは、確固とした常識として定着しているようなものではない。だが、体験か知識かの区別はさまざまな表現の意味用法に関わっているのではないだろうか。」（定延2006、p.51）

全文引用は、引用するときに発生する誤解や曖昧さを排除することができます。一方で、最近全文引用を多用するレポートを見かけますが、余剰な情報が含まれやすくもなるので、やはり引用は必要最低限に留めておくべきでしょう。

②省略を含む

「日本語の表現に「体験」と「知識」という2つの類型～（中略）の区別はさまざまな表現の

意味用法に関わっているのではないだろうか。」(定延 2006、p.51)

省略のメリットとしては、紙幅を節約できることです。字数制限がある場合等は、適度に省略して引用すると効果的です。ただし、省略を挟むことによって、文意が変わらないように注意してください。

### ③註を付ける

「(日本語の表現では、:筆者註) 体験か知識かの区別はさまざまな表現の意味用法に関わっているのではないだろうか。」(定延 2006、p.51)

註を補うことによって、文意が伝わりやすくなります。こちらも省略する場合と同様に文意が変わらないように細心の注意が必要です。

次に間接引用について整理します。間接引用とは言い換えれば「要約」のことです。間接引用の場合、以下のような方法があります。引用部前後の形式にも注意してください。

### ④間接引用する

定延氏は、日本語の表現では体験か知識かの区別がさまざまな意味用法に関わっているのではないだろうかと述べている。

レポートでよく見かけるのが、誰かの意見をさも自分の意見のように本文に組み込んでしまっている例です。もし、(故意ではないと主張しても) 本文に「日本語の表現では体験か知識かの区別がさまざまな意味用法に関わっているのではないだろうか。」とだけ書かれていれば、読み手・聞き手は通常筆者(レポートの書き手)の考えであると理解します。

## 5.4.4 先行文献を引用するときの注意点

形式的には適切に引用していても、初学者がやりがちなる引用の失敗例を挙げておきます。

### ①引用部分の主語が抜けているので、何のことだか分からない。

引用は正確にという条件があるため、引用したい部分だけでは独立した文章になっていない場合があります。前節で紹介した註を付ける等の工夫をして誤解が生じないようにしましょう。

### ②きちんと理解した上で、引用していない。

持論の趣旨と合っていないので、どう考えても結論が逆になる場合もあります。基本的引用は、持論の妥当性を補強するために使われます。引用するとなんだか勉強しているように思えてくるので安易に引用しがちですが、何のための引用かももう一度考えてみましょう。



③引用が多くて自分の考えで文章を書いていない。

「～と言っている」や「～とされる」を繋いだだけの文章もよく見かけます。言ってみれば引用だけで、持論を構成したようなものです。それでどこが自分の意見なのかと聞いてみたくになります。

5.4.2 節でも示したように、引用の「満たすべき要件」に、引用部分とそれ以外の部分の「主従関係」が明確であることや、引用される分量が必要最小限度の範囲内であることがあります。すなわち引用は、議論の前提や枕であって、本文の議論が引用で構成されているようなことはあってはならないことなのです。

#### 5.4.5 データの捏造

捏造（ねつぞう）とは、実際には存在しないものを事実のように示すことです。紙幅の都合で簡単に述べますが、データの捏造も代筆や盗用と同じくらい非難される行為です（特に自然科学の分野では反証可能性（同じ条件で実験すると同じ結果が得られること）が必須条件ですので致命的な過失ということになります）。

データの捏造が起こる原因としては、調査結果が自分の仮説に反していた、調査サンプル数が少ない（ので勝手に増やした）、そもそも調査をしていない等が挙げられます。試験におけるカンニング行為と同じくらいの違反だと認識してください（実際にはそれよりも重い）。データの捏造があると判断されたレポート・論文は、審査対象外となり、最悪の場合それ以降まともに取り合ってもらえない事態が生じることさえあります。

#### 5.4.6 参考文献（reference）の提示の様式

参考文献（参考文献）はレポートの末尾にまとめて、一覧を書くことになっています。参考文献を掲載する場合、重要なことは必要な情報が漏れなく掲載されているかということです。これは、読み手・聞き手が参考文献を実際読んでみたいと思ったときに、それを探し当てる手掛かりになります。したがって、通常は個人のレポートや未公開の資料を挙げることはありません（卒業論文や修士論文が挙げられることはあります）。

一例を挙げてみましょう。

宮城信 (2003)「連続動作の副詞的成分」『筑波日本語研究』8, pp.49-71, 筑波大学日本語学研究室。  
(←雑誌論文)

矢澤真人 (1986)「反復動作の副詞的成分—「動詞句の意味特徴と反復表現の構文論的考察」試論—」『国語国文論集』15, pp.73-94, 学習院女子短期大学。(←雑誌論文)

矢澤真人 (2000)「副詞的修飾の諸相」『日本語の文法 1 文の骨格』, pp.187-233, 岩波書店。  
(←書籍所収の論文)

吉村公宏 (1995)『認知意味論の方法—経験と動機の言語学』人文書院。(←書籍)

上記の例は、以下の (A) のきまりに従っていますが、(B) のような場合もあります。重要なことは情報の提示順ではなく、情報が十分過不足なく提示されているかどうかです。

(A)

(書籍の場合)

著者名 (出版年)、『書名』、出版社.

(雑誌論文の場合)

著者名 (出版年)、「論文名」、『雑誌名』、巻、号、引用ページ、出版社.

(B)

(書籍の場合)

著者名、『書名 (二重カギ)』、出版社、出版年、引用ページ.

(雑誌論文の場合)

著者名、「論文名 (単カギ)」、『雑誌名 (二重カギ)』、巻、号、出版社、出版年、引用ページ.

参考までに、同じ著者が同一年に複数の著書や論文を公刊し、その両方を参考文献に挙げる場合、著者名 (出版年 a) ~、著者名 (出版年 b) ~のように区別して書きます。

参考文献の掲載順にも一定のきまりがあります。以下の基準に従ってください。

①発表年順に並べる。

(古いものから並べる場合と、新しいものから並べる場合とがあります。)

②著者名のアイウエオ順に並べる。

③著者名のアルファベット (日本語名はローマ字) 順に並べる。

④日本語の論文の後に外国語の論文を並べる。

①から④のいずれの基準でも統一されていれば問題ありません (レポート・卒論では②と④を組み合わせたのが一般的です)。

## 5.5 「学士力・人間力基礎」で学ぶアカデミックスキル

### — 内容編 4 (テクニック集) —

ここまで、レポートを書くための基本となるアカデミックスキルについて述べてきました。まとめとして、より良いレポートを書くために有効なアカデミックスキルの使い方についてヒントを挙げておきます。

#### 5.5.1 まとめるテクニック

レポートで説得的な文章はどうすれば書けるのでしょうか。構想段階または書き終えてから、以下のポイントをチェックしてみてください。頭で考えるだけでなく、自作のチェックシート等を作るとよりの確に評価することができます。

- ①1つのレポートでは、1つの課題だけを取り上げる。  
探求課題を1文で書けないようだと、要注意です。
- ②論理に矛盾がなく、結論が明確である。  
結論までの流れがスムーズで分かりやすいことです。
- ③何をしたいのかが明確である。  
探求課題の大きさや難易度がレポートとして適切なものであることです。
- ④根拠が疑いなく、明確である。  
データに不備がなく、課題を説明するのに適したものであることです。
- ⑤反論・例外を先に示して説明して（潰して）おく。  
反論になりそうなことにも予め言及しておいて自説の優位性を担保することです。
- ⑥直感的に納得できる。  
多くの場合、分かりやすく、ありそうな結論であることが重要です。

### 5.5.2 整えるテクニック

整えるというのは、誤字脱字を修正するだけではありません。レポートを書き終えた後に、以下の点にも注意して文章を推敲するようにしましょう。文章が格段に読みやすくなり、説得力が増します。

- ①キーワードを繰り返す  
探求課題や説明に不可欠な「重要語句（キーワード）」は、くどくならない程度に何度も繰り返し使用して、読み手・聞き手に印象づけると良いでしょう。
- ②用語を統一する  
適切な語を使っているか確認しましょう。同じ意味で複数の類似語を使っている場合、どれか一つに統一しましょう。読み手・聞き手は、例えば「問題」、「問い」、「課題」のように似た言葉であっても違う意味があると判断します（この文章でも使い分けています）。
- ③思考の流れに沿った展開を意識する  
説明や論の展開の順序が独りよがりになっていませんか。書くことに不慣れだと自分の立場・理解度を基準に文章を書きがちです。その結果、読み手・聞き手にとって情報不足になっているレポートをよく見ます。時間を置いてもう一度読み直してみましょう。

### 5.5.3 読ませるテクニック

レポートの面白さは内容面だけに依存してはいけません。構成や言葉遣いに注意するだけでレポートの読み味は大きく変わります。「読ませるレポート」を目指しましょう。

- ①演出力とは「推し量り」  
演出力とは内容をどのように見せるかということです。効果的な演出とは、読み手・聞き手が何を知りたいのかを予測して、興味を持ってくれるように表現することで、これを推し量りと言います。レポートは、読み手に面白く読んでもらえることを第一に意識して書くよう

にしましょう。

### ②説得力とは「妥当性・穏当性」

くり返しになりますが、説得力は読み手・聞き手の共感を得られることです。そのためには分かりやすくスムーズで当たり前な論の展開（妥当性）、普通にありそうな結論（穏当性）にまとめることが重要です。

### ③面白いとは「文章力」

結局読んで面白いということは、文章が上手いということです。文章力を磨くには時間がかかりますので、とりあえず気に入った文章のフレーズを真似てみてはどうでしょうか。また、先輩や周りの人が書いたレポートを読むだけでもかなり色々なことに気付くはずですよ。

## 5.5.4 +10点のポイント

良いレポートには次のような内容が盛り込まれています。どんな教員でもこのような内容が書かれていると（触れられているだけでも良い）+10点くらい良い評価をたくなります。

### ①課題を選んだ理由、それがどのような社会的価値があるか明確にしている。

「この課題を解決すると次の大きな課題の解決に繋がる」といったことを具体的に説明しているということです。逆に「昔から知りたかった」としては評価が低くなります。

### ②自分の意見とは異なる見方（反対意見や別の立場）を念頭して論を展開している。

誰でも自分の意見・考え方が正しいと思っています。取り敢えず最後まで書き上げた後に、少し時間をおいて、どのような点で反論できるかを考えてみましょう。専門家でもまったく反論できない完璧な論を展開できることはまずありません。それを論の中に盛り込んで、しっかり再反論しておくことで評価が高くなります。

### ③自分で見つけてきた例を取り上げている。また別の課題に応用している。

すでに述べましたが、批判的思考とは何事もまず疑って分析することです。もしかしたら先生が提示した例より適切なものがあるかもしれませんし、もっと別に似たような例があるかもしれません。自分なりの解釈でかまいませんので周りをぐるぐる見わたしてみる習慣を身に付けるようにしましょう。

## 5.6 発信することの責任と意義

みなの前で意見を述べたり、レポートを書いたりすることは、自分の考えていることが読み手・聞き手に理解してもらえるという大きなメリットがあります。一方で忘れてはならないのが、一度発信してしまった意見や考えは自分の手を離れてしまって独立した考えとして一人歩きしてしまうものでもあるということです。

あなたが書いたレポートは、あなたの知らないところで多くの人に読まれるかも知れません。それを読んだ人は、あなたはそんなこと（そんなレベルのこと）を考えている人なのだと判断することになります。その意味で、何かの情報を発信するという行為には、非常に重い責任が伴うことを自覚しなければなりません。思いつきや一時の感情にまかせて（喩えそれがそのと

きの真実であったとしても) 思いのままに書きたいこと書いてしまうことには感心しません。感情が高ぶっているときは時間を置いて、急ぎのときも一呼吸置いてから文章を綴るようにすると良いでしょう。

一度発信したことは、あなた自身がはっきりと訂正するまでそれがあなたの考えとして公的に認知されているということを忘れてはなりません。万一それに誤りがあったときのことを想像してみてください。あなたの名誉だけの問題ではなく、被害はそれを読んで誤解してしまった人にも及ぶのです。

よく言われるように「良い書き手は良い読み手を育てる」ことも、意見を発信することの重要な意義の一つです。完成したレポートの巧拙にかかわらず、それを書いた経験が、そのジャンルの文章の理解の助けになります。くり返し同ジャンルの文章を書いてみたり（ここではレポート）、仮想的に自分が読むこと（広義の読み手に含まれます）を意識してレポートを書くようにすると文章が上手くなるだけでなく、相乗的にそのジャンルの読み手としても熟達していくことになります。

## 5.7 おわりに

結局、良いレポートとは「自分で見つけた課題を自分なりに解決して得られた「何か」を読み手・聞き手に納得させることができるもの」ということになります。

最後に、私見ですがレポートの内容についてもっとも重要なことについて述べておきます。先生はみなさんの書くレポートにこれまでの認識・理解を大きく揺るがすような内容を期待しているわけではありません。一方で、授業内容をそつなくまとめた備忘録のようなレポートが読みたいわけでもありません。基本的に忠実な、例えば本テキストでまとめたような“レポートの作法”に則った労作を期待しているのです。

それを踏まえた上で、最後にさらに良いレポートを書くためのヒントを挙げておきます。多くの先生が良いレポートと評価するものにはかならず「驚き」と「納得」があります。分かりやすく言えば、驚きとは、読み手・聞き手の「もっと詳しく知りたい」という思いです。これはある種のときめきに似たものかも知れません。

また、納得を得るためには、示された根拠（資料）や説明の方法、辿り着いた答えに共感できることが重要です。なぜその課題を取り上げたのかをその「結論（理論）」から「納得」できることです。授業で提出するレポートでも卒業論文でも（ついでに言えば研究者が学会で発表する論文においても）この点に大きな違いはありません。

少し強い言葉になりますが、驚きのない課題について説明されてもつまらないし、共感・納得のない結論は読むに値しないということです。これは小課題から大論文まですべてに当てはまると思います。研究の道を志してから、すでに20年以上試行錯誤をくり返してきましたが、これは常に筆者の中にある研究態度の指針です。

みなさんは初めて“図書館”に行った日のことを覚えているだろうか？

小学生の時に、読んだ本の数を競って毎日のように“図書館”に足を運んでいた。とか、貸し出しカードに必ず登場する「本の虫」と呼ばれる強者がクラスに一人はいた。とか、はたまた、どちらかと言うと、“図書館”で過ごすより運動場で遊ぶ方が好きだった。なんていう人もいることだろう。“図書館”に関する記憶をたどると、なにかしら本にまつわる思い出がよみがえる人も少なくないと思う。私も例外ではない。

私の、うっすらと消えかかっている“図書館”にまつわる古い記憶といえば、ある1冊の本が思い浮かぶ。それは「こまったさんのハンバーグ」という絵本である。なつかしい！と感じた方もいると思うが、多くの平成生まれの方々にはひょっとすると知らないかもしれない。少し解説を加えると、この本は花屋の奥さんのこまったさんが奇想天外な出来事に出くわしながら料理を作るという、物語と料理を同時に楽しむことができる料理童話「こまったさんシリーズ」の3作目の作品（「こまったさんシリーズ」は全10作品からなる）である。当時小学生だった私は、料理人の父の影響か、「ハンバーグ」という字面に心惹かれてこの本を手にとったのを覚えている。大人になった今、改めて読み返してみると、こまったさんの旦那であるヤマさんは、なんて奔放な人なんだ。と若干の憤りが…。あの頃の私が感じていた純粋なおもしろさにはもう出会えなくなっただけで、胃袋がしっかりと刺激され、夕食の献立が決まるという利点が生まれた。

ここで、時間軸を今に移すと、もっぱら『“図書館”に足を運ぶ』よりはまず、（このテキストで紹介されているように）『パソコンで“図書館”内の論文を探す』ことから始まる“大学図書館”利用生活である。それでも、時に“大学図書館”に足を運ぶと、専門書が並ぶ静かな空間で、あの頃のように「本の虫」（＝人）に追いつけ追いこせと、無邪気に興味を惹く論文を手にとり、多くの情報から自分に足りないものを見つけ、「研究の小虫」を目指している。物事の考え方や感じ方は変わっても、やっていることといたら小学生の時と変わらないことに気づく。キーワードや興味のある研究課題にこまった時、「ハンバーグ」のように単純なことでもいいのかもしれない。“図書館”に足を運んで、まずは、足が、手が、頭が、おもむくままに情報に触れてみていただきたい。“図書館”内でこまったことがあれば、遠慮せず、図書館員（＝人）の方に相談していただきたい。

さて、自分の興味のおもむくままに…英科学雑誌「Scientific Reports」を探しに、図書館に行ってみよう。検索ワードの候補は、「鬼界カルデラ」「滝沢秀明」…それから…。

# 図書館員を利用しよう

## 6.1 図書館には図書館員が待っている！

図書館ではみなさんの学習を助けるために、図書館員がさまざまな形のサービスを行っています。この章でご紹介するサービスを参考に興味があるものはどんどん利用してみてください。図書館員がみなさんをお待ちしています！

### 6.1.1 図書館員は情報（コンテンツ）のスペシャリスト

図書館を利用すればいろんな資料が手に入ります。図書や雑誌に参考書、新聞記事に論文など、分野も年代幅広く多種多様です。効率よく探すためには、蔵書検索（OPAC）やデータベースを使いこなすスキルが欠かせません。使いこなすことができれば、図書館にいながら日本国内に留まらず海外の資料や論文だって見つけることができるようになります。

使い方はそんなに難しいものではありません。ちょっとしたコツさえ掴めば、誰でも簡単に利用できます。そのため図書館では定期的に「図書館講習会」や「データベース講習会」を行い、それぞれのコンテンツを熟知した図書館員が使い方を分かりやすくお伝えしています。講習会の詳しい内容は、ウェブサイトや図書館の掲示板でお知らせします。

また、これらの講習会を授業と連携させ、受講者に合わせてカスタマイズした内容をお届けする「出前講座」も行っています。



図 6-1 データベース講習会

### 6.1.2 図書館員の役割は課題解決とアカデミックスキル習得の支援

大学生に必要なことは自立して学んでいく姿勢です。講義で学んだことを土台にしながら、興味のあるテーマを見つけ、情報を集めて結論を導き出すことが期待されています。そのための重要な手段の一つが図書館、そしてそこに所蔵されている資料や図書館員の存在です。図書館に行けば、専門的な資料やそれに精通したスペシャリストである職員のサービスが受けられます。

自立した学習になくてはならないスキルにレポートの書き方、図書館の使い方、文献の検索と引用の方法といったアカデミックスキルがあります。大学生生活の第一歩を踏み出したみなさんにこの大切なスキルを身に付けてもらうため、図書館員も教員の方々と同じように授業の支援を行っています。

教養教育科目「学士力・人間力基礎」では授業のカリキュラムに「アカデミックスキルの基礎」を組み込み、授業の一環として図書館員からみなさんにアカデミックスキルとはどんなものか学生の目線に立ってレクチャーしています。今後の学生生活を大きく左右するアカデミックスキル。ぜひこの授業で自分のものにしてください。

## 6.2 利用できる学修支援サービス

### 6.2.1 パーソナルライブラリアンというシステム

パーソナルライブラリアン (Personal Librarian) とはアメリカの大学図書館で始まったサービスです。図書館を初めて利用する新生入生に専属の図書館員 (Librarian) がつき、学生のパートナーとなって細やかな支援を行います。長期に渡って継続的に関わりを持つので、より発展的で一人一人に適したアドバイスを提供することができます。

例えば「富山の自然環境について」というテーマのレポート課題が出たとします。みなさんはどんな方法で情報を集めますか？

まず思い浮かべるのが「富山」「自然環境」という二つのキーワードを Web で検索してみるのが多いのではないのでしょうか？最新の情報を手に入れたい時、インターネットは非常に便利なツールです。しかし、便利な反面、正確で十分な根拠がある情報なのかどうか見極めるスキルが必要になります。

そんな時に頼りになるのが図書館員です。情報の見極め方、正確な統計やデータをどこで扱っているのか、レポートに引用しても問題ないのかなど必要なことを教えてくれます。

では、今まで「富山の自然環境」について先人の研究者たちが何を調べたのか、どのように研究してきたのか、分かっていることや現在の課題について調べたいときはどうしたら良いのでしょうか。こんなときは専門に書かれた図書や研究者たちの論文を読みましょう。大学図書館が所蔵する膨大な資料の中から、知りたい情報が載っている資料をどうやって探し出しますか？何となく良さそうなものを読んでみるのも良いかもしれません。ですが、他にもっと良



い資料を見落としてしまうかもしれません。見つけるのに手間どることもあるでしょう。

そんな時にも頼りになるのが図書館員です。調べたいテーマに相応しい資料の紹介、効率よく資料を集める方法、図書館以外から資料を入手する手段など、幅広い視点でみなさんの学習がもっと捗るようにサポートしています。

パーソナルライブラリアンは、初年次の学生が対象です。担当期限は1年間で先着50名まで受け付けます。詳しい内容はウェブサイトや図書館の掲示板でお知らせします。

### 6.2.2 相談したいときの窓口

図書館には、図書館の利用や資料・事柄等に関する相談を受け付ける窓口があります。問い合わせには次の方法があります。

- ・レファレンスサービス

図書館のカウンターで図書館員に直接相談できるサービスです。

- ・バーチャルレファレンスサービス

直接図書館に行かなくても電子メールで質問できるサービスです。場所や時間を問わず手軽に相談できます。

バーチャルレファレンス宛先：[oshiete@adm.u-toyama.ac.jp](mailto:oshiete@adm.u-toyama.ac.jp)

\*個人情報に関する質問、人生相談、病気の相談、物の鑑定など一定の要件についてはお答えできませんのでご注意ください。



# 役に立つ情報源の紹介

この章では、第4章で紹介したデータベースや、情報を収集する際に役に立つ情報源を紹介します。ここではインターネット上の情報源のみを紹介しますが、参考図書（辞書・事典など）も有用な情報源となりますので、調べ物をする際にはお気軽に図書館カウンターへご相談ください。

## 7.1 第4章で紹介した各種情報源

- ・ JapanKnowledge( ジャパンナレッジ )  
([http://www.lib.u-toyama.ac.jp/JapanKnowledge\\_guide.html](http://www.lib.u-toyama.ac.jp/JapanKnowledge_guide.html)) 学内限定



図 7-1 JapanKnowledge

百科事典や辞書など 50 種類のコンテンツの情報を一括して検索することができるデータベースです。言葉の意味や事柄について調べるときは、まずはこの JapanKnowledge を使ってみましょう。引用情報付きでコピーする機能もあります。週刊エコノミストや東洋文庫などの雑誌や叢書を読むこともできます。

- ・ 富山大学附属図書館 OPAC (オーパック) (<http://opac.lib.u-toyama.ac.jp/opac/>)



図 7-2 富山大学附属図書館 OPAC

富山大学で所蔵している資料（図書・雑誌・電子ジャーナル・電子ブック・視聴覚資料）を検索できるツールです。資料についての情報（タイトル・著者名・出版年など）と、どこに資料があるのか（配架場所）がわかります。

- ・ CiNii Books(サイニィブックス) (<https://ci.nii.ac.jp/books/>)



図 7-3 CiNii Books

全国の大学図書館等が所蔵する資料（図書・雑誌）の情報を検索できます。必要な資料が富山大学に無い場合は、CiNii Books で他大学の所蔵を調べてみましょう。所蔵館から資料を取り寄せて利用することもできます（有料）。

- ・ WorldCat(ワールドキャット) (<https://www.worldcat.org/>)



図 7-4 WorldCat

世界中の図書館の所蔵する資料（図書・論文・DVD など）の情報を検索できます。必要な資料が国内に見つからない場合は、WorldCat で調べてみましょう。時間とお金はかかりますが、海外の資料も取り寄せることができます。詳しくはカウンターでお尋ねください。

- ・ CiNii Articles(サイニィアーティクルズ) (<https://ci.nii.ac.jp/>)



図 7-5 CiNii Articles

日本の学術論文を中心とした論文情報を検索できます。日本語の論文を探す場合は、まずはこの CiNii Articles を使ってみましょう。電子ジャーナルへのリンクボタンから本文を見たり、OPAC へのリンクボタンから論文の掲載されている雑誌の所蔵を確認したりすることもできます。

- ・ Web of Science(ウェブ オブ サイエンス) (<http://apps.webofknowledge.com/>) 学内限定



図 7-6 Web of Science

自然科学・社会科学・人文科学の世界の主要な論文情報を検索できます。英語の論文を探す場合は、まずはこの Web of Science を使ってみましょう。引用情報も充実しているので、様々な用途に使えます。電子ジャーナル・OPAC・文献複写申込などへのリンク機能もあります。

- ・ Google Scholar(グーグル スカラー) (<http://scholar.google.co.jp/>)



図 7-7 Google Scholar

Google の提供する学術情報検索サービスです。分野や言語を問わず、世界中の学術論文を中心とした学術情報(引用情報もあり)を検索することができます。学内からアクセスすれば、電子ジャーナルへのリンクボタンも表示されます。

- ・ 富山県内図書館横断検索 (<http://lib2.lib.pref.toyama.jp/CrossLibrary/>)



図 7-8 富山県内図書館横断検索

富山県内の図書館の所蔵状況を一度に検索できます。県内の公共図書館に所蔵があれば、無料で取り寄せることができます。ただし、入手までに1～2週間ほど時間がかかります。取り寄せ申込方法は4.6.3節をご覧ください。

富山県内だけでなく、東海北陸地区（石川・福井・岐阜・愛知・三重）の公共図書館からも無料で取り寄せができます。県ごとに横断検索システムがありますので、富山県内に所蔵が無ければ、他の県の所蔵を調べてみましょう。

## 7.2 その他の有用な情報源

### 7.2.1 調べ物

- ・コトバンク (<https://kotobank.jp/>)



図 7-9 コトバンク

複数の出版社の百科事典や辞書などを一括して検索できるサービスです。JapanKnowledgeは学内限定アクセスで同時接続数にも限りがありますが、コトバンクはフリーアクセスで利用できます。

- ・国立国会図書館リサーチ・ナビ (<http://rnavi.ndl.go.jp>)



図 7-10 国立国会図書館  
リサーチ・ナビ

調べ物に役立つ情報を、テーマや資料の種類別に紹介してくれるサービスです。調べ方のノウハウの案内もありますので、どうやって情報収集をすれば良いかわからないときは、このリサーチ・ナビも参考にしてみてください。

### 7.2.2 デジタル資料

- ・ 国立国会図書館 デジタル化資料送信サービス 館内限定



図 7-11 国立国会図書館  
デジタル化資料  
送信サービス

国立国会図書館デジタル資料のうち、絶版等の理由で入手困難な資料を、図書館を通じて閲覧・複製することができるサービスです。約 150 万点の資料が利用できます。同様のサービスとして、国内で製造された 1900 年～ 1950 年頃の SP 盤等の音源を聴くことのできる「歴史的音源（れきおん）」も館内限定で利用できます。ご利用は各館カウンターまで。

- ・ 日経 BP 記事検索サービス ([http://www.lib.u-toyama.ac.jp/NikkeiBP\\_guide.html](http://www.lib.u-toyama.ac.jp/NikkeiBP_guide.html))



図 7-12 日経 BP 記事検索  
サービス

日経BP社が発行する雑誌（日経ビジネス・日経コンピュータなど）のバックナンバー記事を、オンライン上でダウンロードできます。年間全文ダウンロード数に一定の上限がありますので、必要な記事のみ閲覧するようにしてください。

- ・ 富山大学学術情報リポジトリ ToRepo (<https://toyama.repo.nii.ac.jp/>)



図 7-13 富山大学学術情報  
リポジトリ ToRepo

本学で生み出された学術的な成果物（研究論文・報告書・学会発表資料など）を収集・蓄積・保存し、発信しているサービスです。この取り組みは各大学で行われており、CiNii Articles などの論文検索データベースからリンクを辿って利用することも可能です。

### 7.2.3 新聞記事

- ・日経テレコン (<http://t21ipau.nikkei.co.jp/ipauth/auth/auth?sid=1>) 学内限定



図 7-14 日経テレコン

日本経済新聞社が発行する新聞やニュースの記事検索や、記事本文を読むことができるデータベースです。ナビ型記事検索では、テーマや業界ごとに絞り込みキーワード候補が件数入りで表示されるので、便利です。見出しや本文の表示件数に応じた従量料金制の有料データベースですので、十分に絞り込み検索をしながら利用するようにしてください。

- ・聞蔵II (<http://www.lib.u-toyama.ac.jp/gakunai/kikuzo2.html>) 学内限定



図 7-15 聞蔵II

朝日新聞社が発行する「朝日新聞」、「AERA」、「週刊朝日」、「朝日新聞縮刷版」などの記事検索や、記事本文を読むことのできるデータベースです。学内で同時にアクセスできる数が1のため、アクセスできない場合はしばらく待ってから再トライしてください。

- ・ 国立国会図書館 無料記事検索サービス

([https://rnavi.ndl.go.jp/research\\_guide/entry/theme-honbun-700003.php](https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/theme-honbun-700003.php))

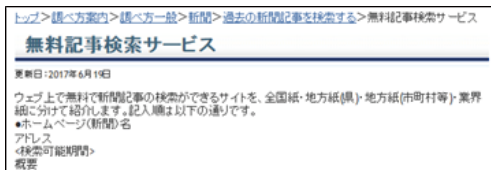


図 7-16 無料記事検索サービス

ウェブ上で無料で新聞記事の検索ができるサイトを、全国紙・地方紙(県)、地方紙(市町村等)・業界紙に分けて紹介しているサービスです。富山県関係の記事検索ができる「富山県立図書館 県内記事情報検索」も紹介されています。

## 7.2.4 統計資料

- ・ 政府統計の総合窓口 e-Stat( イースタット ) (<https://www.e-stat.go.jp/>)



図 7-17  
政府統計の総合窓口  
e-Stat

各府省等の統計情報を一括して検索・閲覧することができるサイトです。人口動態調査や労働力調査、家計調査など、様々な統計情報を見ることができます。統計年鑑等の統計書やリンク集から、日本だけでなく世界の統計情報を調べることもできます。

- ・ とやま統計ワールド (<http://www.pref.toyama.jp/sections/1015/index2.html>)

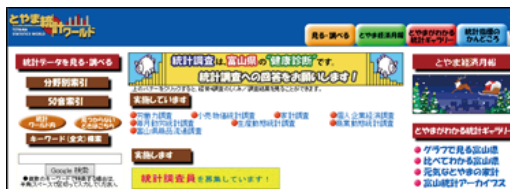


図 7-18  
とやま統計ワールド

富山県内の統計情報を検索・閲覧することができるサイトです。学校基本調査や市町村地方財政状況・労働統計調査など、富山県内の様々な統計情報を調べることができます。



## 7.2.5 その他

- ・富山大学で利用できるデータベース一覧 (<http://www.lib.u-toyama.ac.jp/db/db.html>)



図 7-19 富山大学で利用できるデータベース一覧

これまで紹介した以外にも、富山大学では、化学・数学・医学・薬学・看護学・教育学・法学など様々な専門分野のデータベースを利用することができます。詳細は富山大学附属図書館ウェブサイトのデータベース一覧をご覧ください。

## 7.3 図書館からの情報発信

- ・ウェブサイトの紹介 (<http://www.lib.u-toyama.ac.jp/>)



図 7-20 富山大学附属図書館ウェブサイト

附属図書館のウェブサイトでは、三館（中央図書館・医薬学図書館・芸術文化図書館）の開館状況の確認や、開館カレンダーの表示、図書館概要など、三館に共通する情報を掲載しています。各館からのお知らせや利用案内などは、それぞれの図書館のウェブサイトからご覧ください。

## ・Twitter、Facebook での情報発信



図 7-21 富山大学附属図書館 Twitter

情報発信は Twitter や Facebook からも行っています。図書館のイベントに関することや、本や図書館の施設の紹介など、さまざまなお知らせをリアルタイムに行っていますので、利用している人は是非フォローをお願いします。

## 7.4 講習会（イベント）の実施



図 7-22 各種講習会のポスター

図書館では、学修や学生生活に役立つ様々な講習会を実施しています。これまで、レポートの書き方講習会や、文献の探し方講習会、各データベースの利用説明会のほか、富山ビギナー講座なども行ってきました。今後も学生の皆さんにとって必要な講習会を実施していく予定ですので、積極的にご参加ください。また、「こんな講習会（イベント）を開催してほしい」「こんな講習会（イベント）を開催してみたい」といった要望がありましたら、お気軽に図書館までご連絡ください。連絡先はこちら → [oshiete@adm.u-toyama.ac.jp](mailto:oshiete@adm.u-toyama.ac.jp)

## 7.5 演習問題

次の文章の \_\_\_\_\_ の部分を埋めてみよう。

- ①言葉の意味や事柄について調べるために、図書館の参考図書コーナーにある辞書や事典と、ウェブ上のデータベースである \_\_\_\_\_ や \_\_\_\_\_ を使用した。
- ②富山大学附属図書館の本を探すために \_\_\_\_\_ を検索してみたが、残念ながら富山大学には所蔵がなかったため、 \_\_\_\_\_ を使って他大学の所蔵を確認した後、所蔵館からの取り寄せを依頼した。
- ③日本語の論文を探すことのできるデータベース \_\_\_\_\_ を使って論文を探したところ、リンクボタンから電子ジャーナルを読むことができた。その論文の参考文献リストに記載されていた英語論文を探すのに、学内限定で使えるデータベース \_\_\_\_\_ を使用した。



富山大学附属図書館キャラクター LiLiKa

## 執筆者

|     |       |                  |
|-----|-------|------------------|
| 第1章 | 宮城 信  | 富山大学人間発達科学部准教授   |
| 第2章 | 内島 秀樹 | 富山大学学術情報部長       |
| 第3章 | 三上 理恵 | 富山大学学術情報部医薬学図書館課 |
| 第4章 | 金田 佳子 | 富山大学学術情報部図書館情報課  |
| 第5章 | 宮城 信  | 富山大学人間発達科学部准教授   |
| 第6章 | 安田 翔子 | 富山大学学術情報部図書館情報課  |
| 第7章 | 伊藤 芳人 | 富山大学学術情報部図書館情報課  |

学士力・人間力基礎  
**情報リテラシースキルの学び方**

---

発行日 2018年3月 第1版 発行

編集・発行 富山大学附属図書館  
〒930-8555 富山市五福 3190  
<http://www.lib.u-toyama.ac.jp/>

---

わからないことがあれば図書館に聞いてみよう！

《お問い合わせアドレス》

**oshiete@adm.u-toyama.ac.jp**

中央図書館 TEL:076-445-6898

医薬学図書館 TEL:076-434-7165

芸術文化図書館 TEL:0766-25-9110